

第2章 境港市の現状と課題

1 境港市の現状と課題の要約一覧

1) 概況

- ☆人口減少と高齢化が進んでいる。
- ☆女性の健康寿命を伸ばすことが大切。
- ☆約半数が「がん」「心疾患」「脳血管疾患」で亡くなっている。
- ☆自立支援医療の申請者数が増加し、特にうつ病の割合が高い。
- ☆要介護認定者のうち、要支援1の認定者数が最も増加傾向にある。

2) 分野別の健康実態

(1) 食生活・栄養

- ☆幼児期はほとんどの子が朝食を食べているが、20代以上では朝食を食べていない人の割合が高い。
- ☆栄養バランスを考えて食べている人の割合は、女性より男性の方が低く、年齢が若いほど低い。
- ☆野菜の一日摂取量は、女性より男性の方が少なく、年齢が若いほど摂取量が少ない。

(2) 運動・身体活動

- ☆運動不足と感じている人の割合は、年齢が若いほど高い。
- ☆一日30分以上週2回の運動をしている人の割合は、年齢が若いほど低い。

(3) ころ・休養

- ☆30代～50代に自死で亡くなる人が多い傾向がある。
- ☆起床時間の遅い子は、朝食を毎日食べる割合が低い。
- ☆成人期に適切な睡眠時間（6時間以上8時間未満）が確保できていない人の割合は40代が多い。
- ☆50代がストレスを感じている人が多い一方、ストレスを解消できていない割合も高い。
- ☆自分の悩みを話せる人がいると、自己肯定感や自己役立感が強い傾向がある。

(4) 飲酒・喫煙

- ☆男性、特に50代の毎日の飲酒割合が高い。
- ☆妊婦の喫煙がみられる。

(5) 歯・口腔

- ☆幼児期から年齢が上がるにつれ、むし歯罹患率は上昇し、中学生から減少する。
- ☆20歯以上、自分の歯を有する人の割合は、国・県と比較すると成人期全ての年代で低い。

(6) 生きがい・社会参加

- ☆組織活動参加では、自治会活動、健康・スポーツ活動が多い。

(7) 疾病の発症・重症化予防

- ☆男女とも、がん、脳血管疾患の死亡比が全国平均より高く、死亡数も多い。
- ☆健診（検診）の受診率は上昇傾向だが、県平均より概ね低く、特に60代が県平均より低い
- ☆がん検診未受診の理由の多くは、検診の必要性を感じていないから。
- ☆国保加入者の特定健診結果が悪い（基準値以上の該当率が高い）。
- ☆一人当たりの医療費、入院外の国保の「生活習慣病」、中でも「内分泌・栄養及び代謝疾患」の医療費が県内で一番高い。
- ☆介護・介助が必要となった原因として、骨折・転倒、生活習慣病が目立つ。

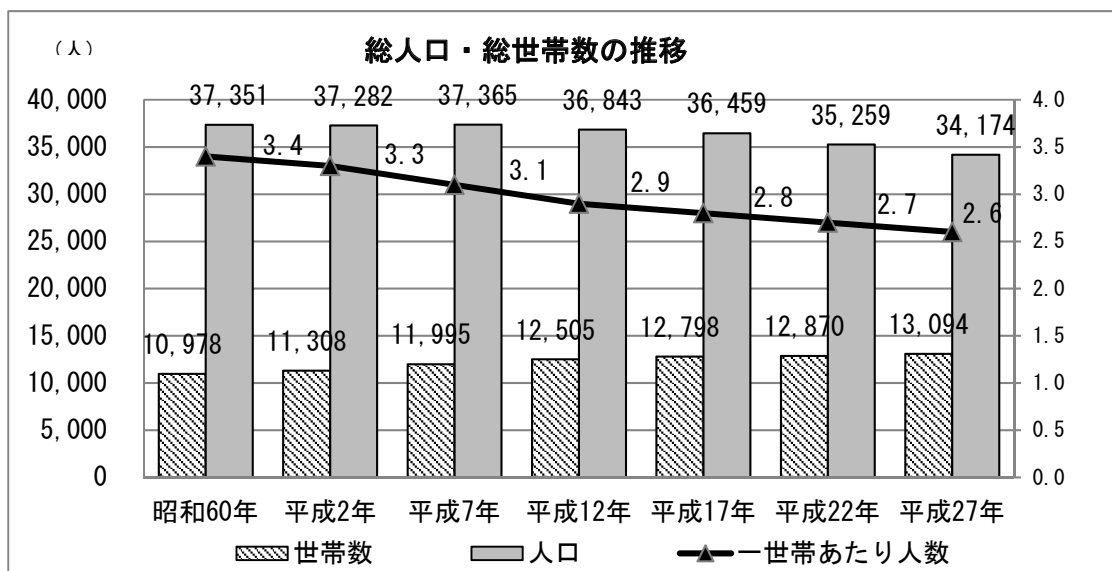
2 境港市の概況

＜要約＞人口減少と高齢化が進んでいる

(1) 人口動態

① 人口と世帯の推移

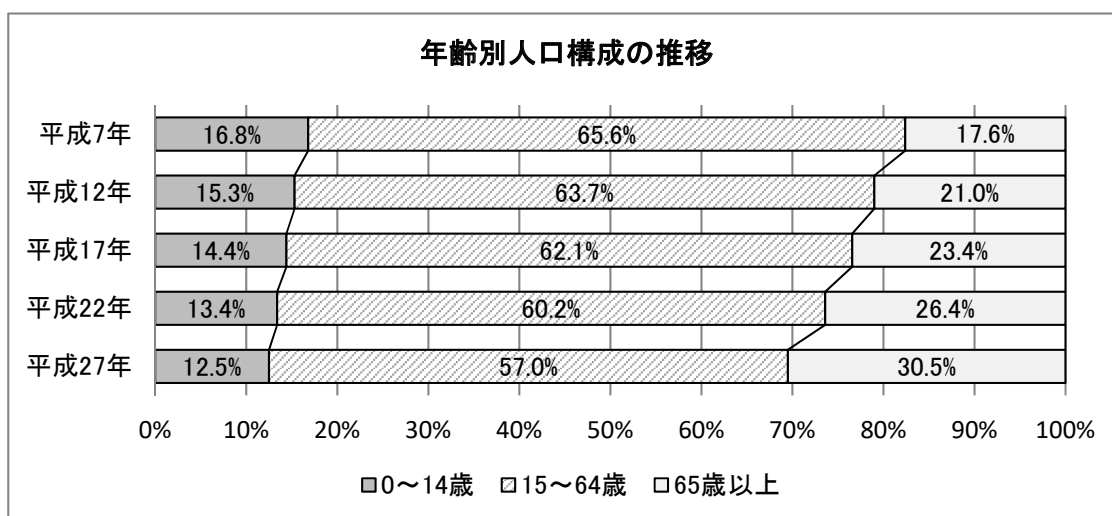
本市の人口は、平成7年の37,365人から減少しており、平成27年には34,174人となっています。一方で、世帯数は増加が続いており、平成27年には13,094世帯となっています。一世帯当たりの人員は、減少が続いており、平成27年には一世帯当たり2.6人となっています。



資料：総務省統計局 国勢調査

② 年齢別人口構成の推移

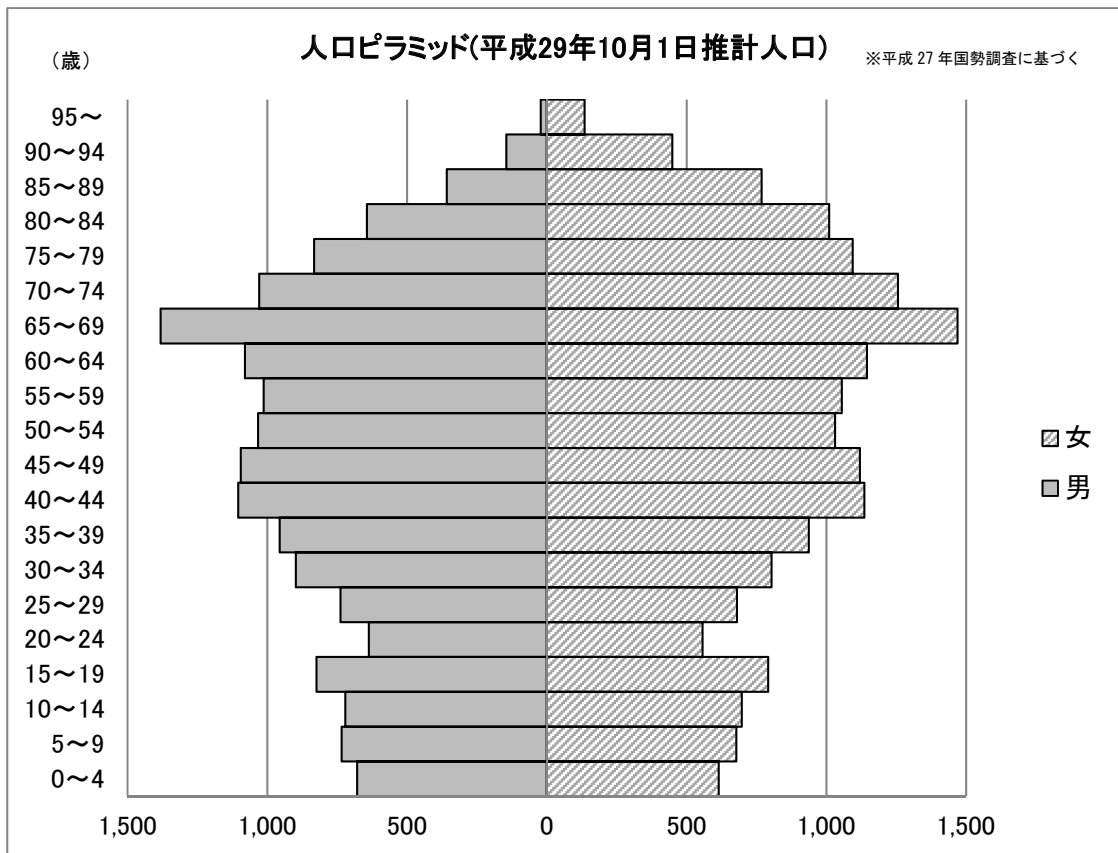
本市の年齢別人口構成によると、15歳未満の年少人口の割合が減少し、65歳以上の高齢人口の割合が増加して、高齢化が進んでいます。



資料：総務省統計局 国勢調査

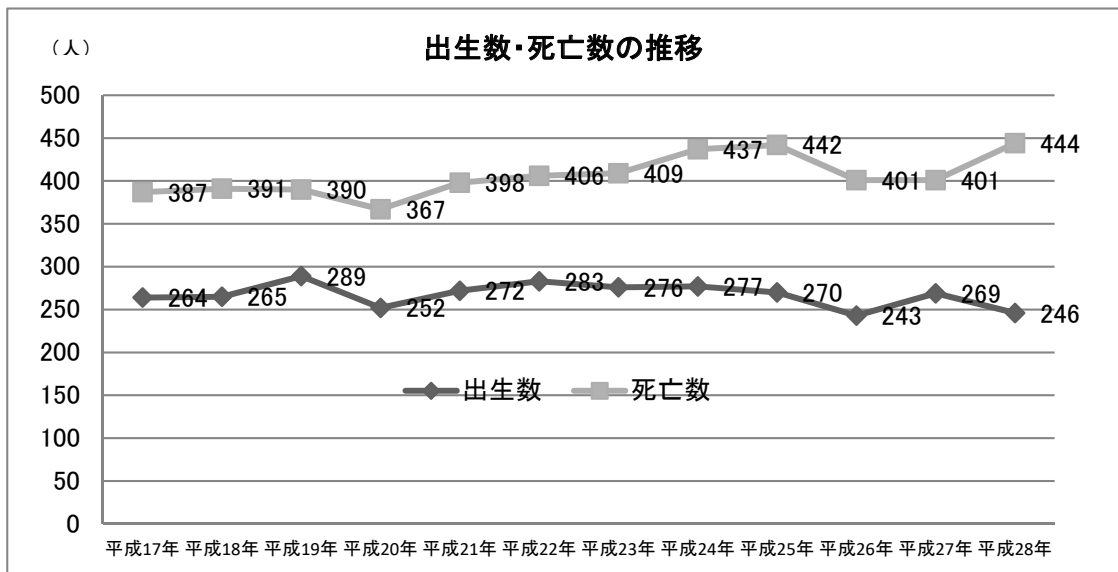
③ 人口ピラミッド

本市の人口ピラミッドによると、男女とも65～69歳の人口が一番多く、それ以下の年齢では20～24歳の人口が一番少ない状況です。



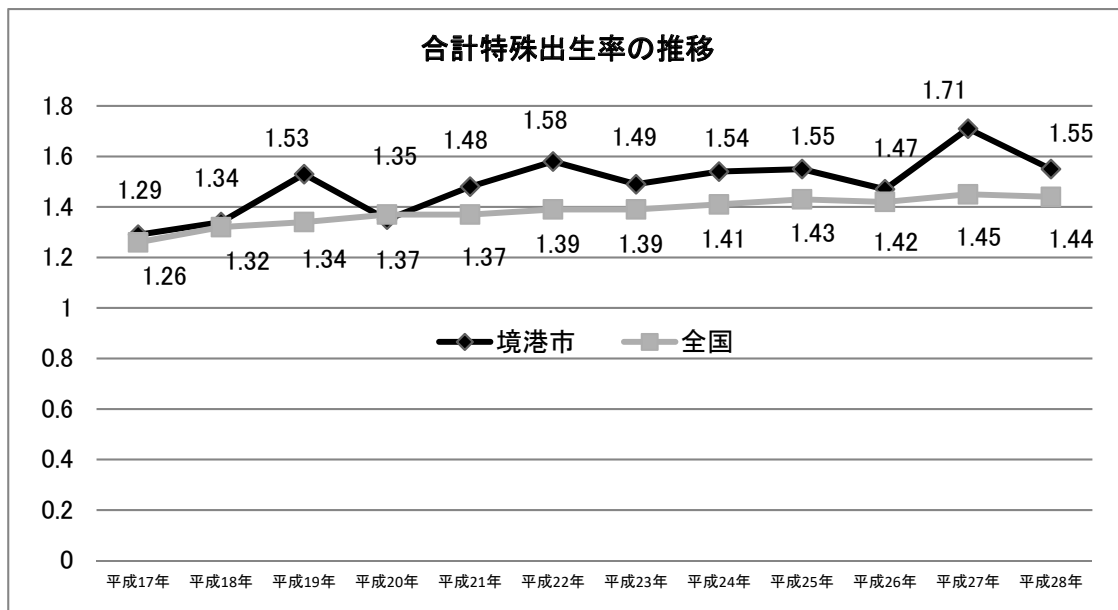
④ 出生数・死亡数の推移

本市の出生数は減少、死亡数は増加傾向で、人口の自然減が続いています。



⑤ 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、年によって増減はありますが、横ばいで推移しています。



資料:鳥取県福祉保健課

<要約>女性の健康寿命をのばすことが大切

(2) 平均寿命・健康寿命

平成 22 年から 26 年にかけて、本市の平均寿命と健康寿命は、男女ともに上昇しています。

平成 26 年では、健康でない期間（平均寿命と健康寿命の差）が、男性は 1.46 年、女性は 3.55 年となっており、男性よりも女性の方が約 2 倍長く、県と比較すると、男性は短かく女性は長くなっています。

※ なお、データは、市町村を比較するために、県が独自に算出したもので、国が発表する県データとは一致していません。

① 平均寿命

	男性 (歳)		(位)
	平成 22 年	平成 26 年	(県内順位)
境港市	78.99	79.66	9
鳥取県	79.24	79.66	

	女性 (歳)		(位)
	平成 22 年	平成 26 年	(県内順位)
境港市	86.32	86.70	11
鳥取県	86.53	87.14	

② 健康寿命 (日常生活動作が自立している期間)

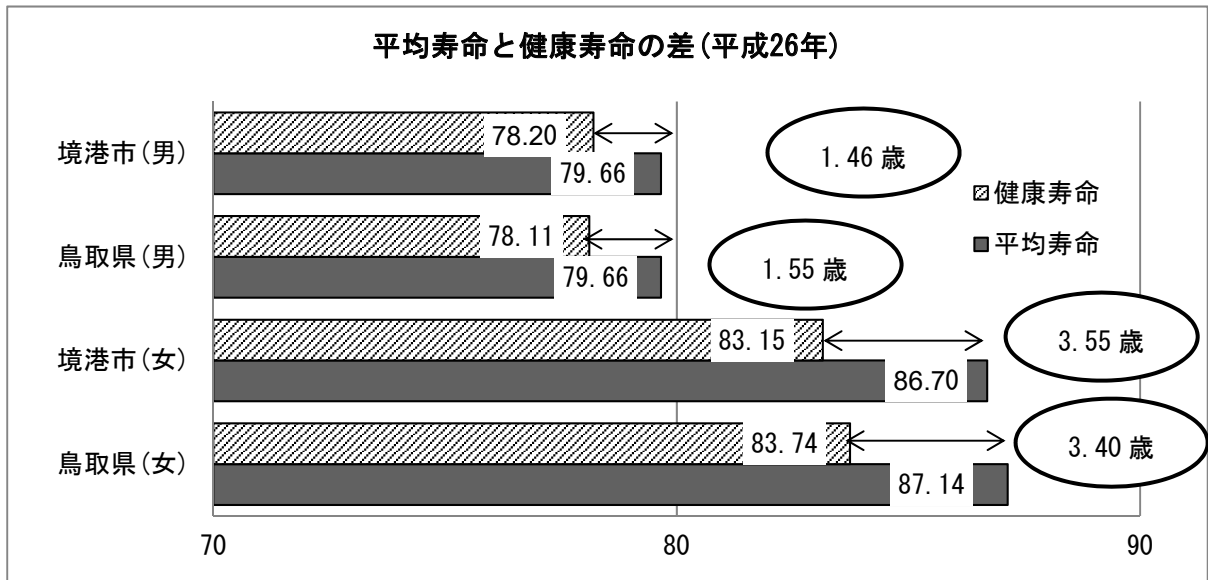
	男性 (歳)		(位)
	平成 22 年	平成 26 年	(県内順位)
境港市	77.43	78.20	8
鳥取県	77.69	78.11	

	女性 (歳)		(位)
	平成 22 年	平成 26 年	(県内順位)
境港市	82.88	83.15	12
鳥取県	83.20	83.74	

③ 平均寿命と健康寿命の差

男性	(歳)	(位)	
	平成 22 年	平成 26 年	(県内順位)
境港市	1.56	1.46	8
鳥取県	1.55	1.55	

女性	(歳)	(位)	
	平成 22 年	平成 26 年	(県内順位)
境港市	3.44	3.55	10
鳥取県	3.33	3.40	



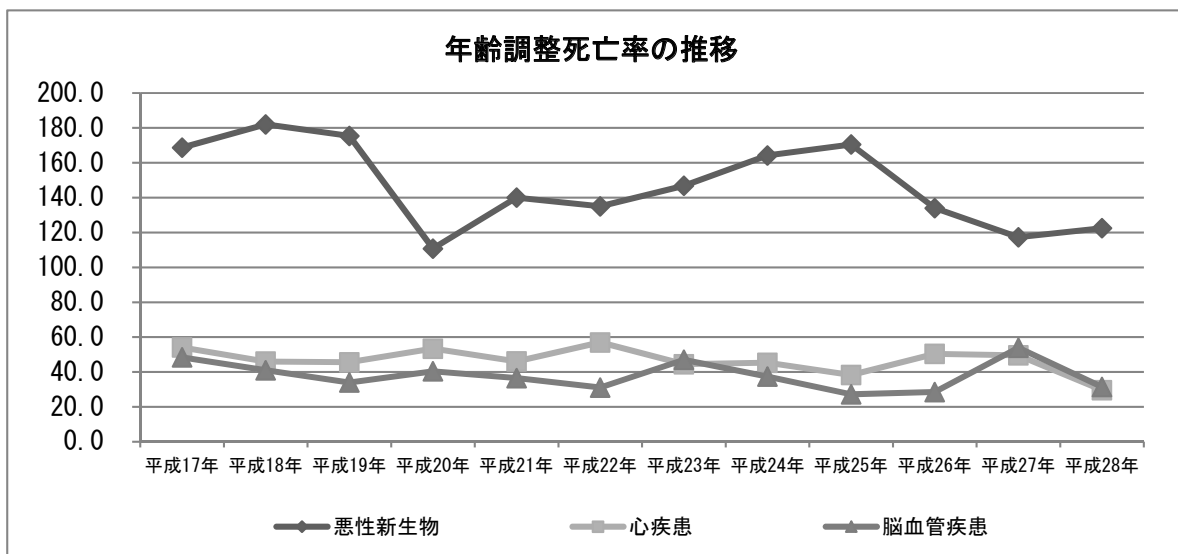
資料：元気な人づくり行動計画

(3) 死亡と疾病

<要約>約半数が「がん」、「心疾患」、「脳血管疾患」で亡くなっている

① 死亡率の推移

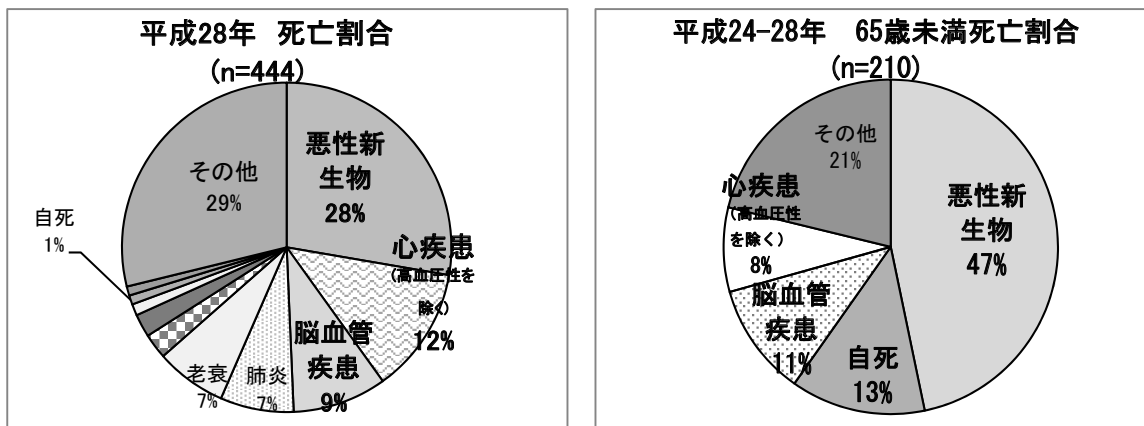
本市の年齢調整死亡率は、悪性新生物（がん）、脳血管疾患、心疾患の順に高くなっています。



資料:鳥取県福祉保健課

② 死因別死亡割合

本市の死亡割合は、悪性新生物（がん）、心疾患及び脳血管疾患が原因で亡くなる方が49%と約半数を占めています。また、65歳未満では、悪性新生物（がん）で亡くなる方が47%と約半数を占めています。



資料:鳥取県福祉保健課

(4) 国民健康保険（国保）医療費等の状況

① 国保加入者状況

平成30年1月末現在、本市の人口は約35,000人、国保被保険者は約7,000人で、およそ5人に1人が国保に加入しています。

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
被保険者数(人)	一般	7,626	7,430	7,224
	退職	598	417	281
	合計	8,224	7,847	7,505
世帯数		5,055	4,924	4,770

資料：市民課

② 国保医療費の状況

被保険者数が減少しているにもかかわらず、総医療費はほぼ横ばいで、一人当たりの医療費は増加傾向にあります。また、生活習慣病である糖尿病、高血圧性疾患、虚血性疾患、脳血管疾患が医療費全体の12.5%を占めています。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総医療費(円)	3,557,089,995	3,649,206,155	3,610,526,575
対前年比	102.3%	102.6%	98.9%
一人当たりの医療費(円)	434,957	465,045	481,083
対前年比	106.3%	106.9%	103.4%

資料：市民課

疾 病	医療費（円）	割 合（％）
糖 尿 病	136,700,380	4.4
高血圧性疾患	123,427,380	4.0
虚血性心疾患	53,415,970	1.7
脳血管疾患	73,372,700	2.4
上記以外の疾病	2,725,742,580	87.6
合 計	3,112,659,010	100.0

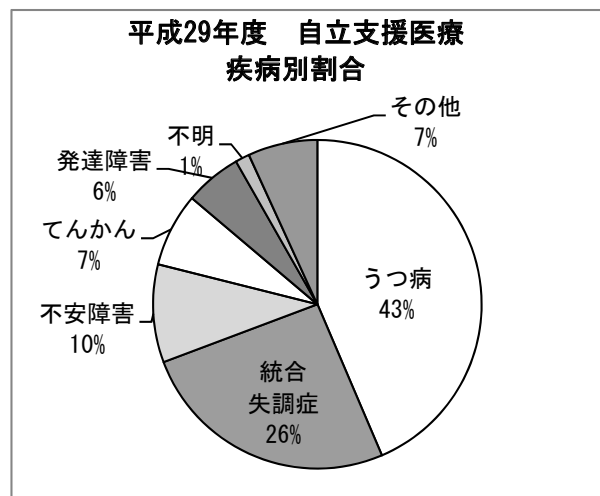
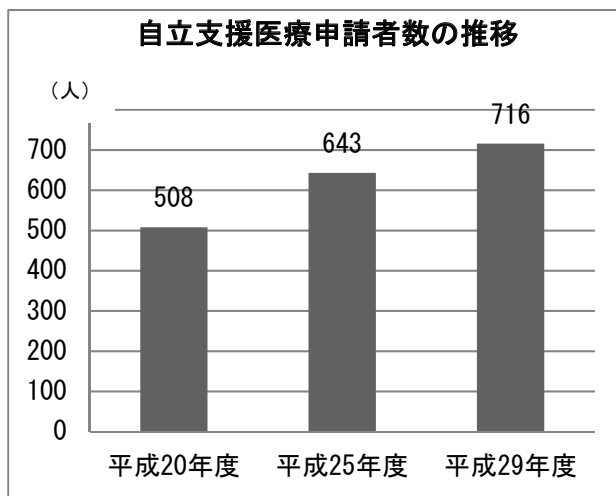
※KDB疾病別医療費分析（中分類）より 平成28年度累計医療費＝レセプト総点数×10

資料：市民課

（５）自立支援医療（精神通院）の状況

＜要約＞自立支援医療の申請者数が増加し、特にうつ病の割合が高い

本市の自立支援医療の申請者数は増加しており、原因疾患の内訳は、うつ病の割合が高い傾向にあります。



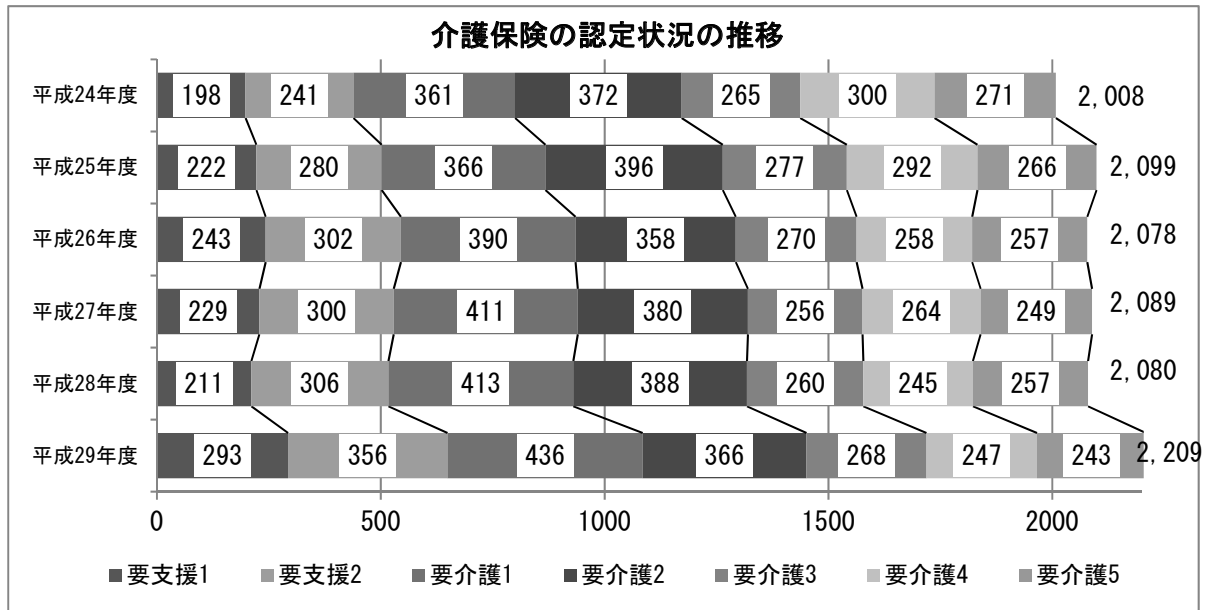
資料：健康推進課

＜要約＞要支援1の認定者数が最も増加

(6) 介護保険の認定状況（要介護認定者数の推移）

介護保険の要介護認定を受けた方（要支援・要介護認定者）の数は、増加傾向にあり、平成24年度の2,008人から平成29年度は2,209人と、過去5年間で201人増加しています。

過去5年間で最も増加しているのは、要支援1の認定者で、平成24年度の198人から平成29年度は293人と95人の増加（平成24年度比47.9%増）となっています。



資料：介護保険事業報告

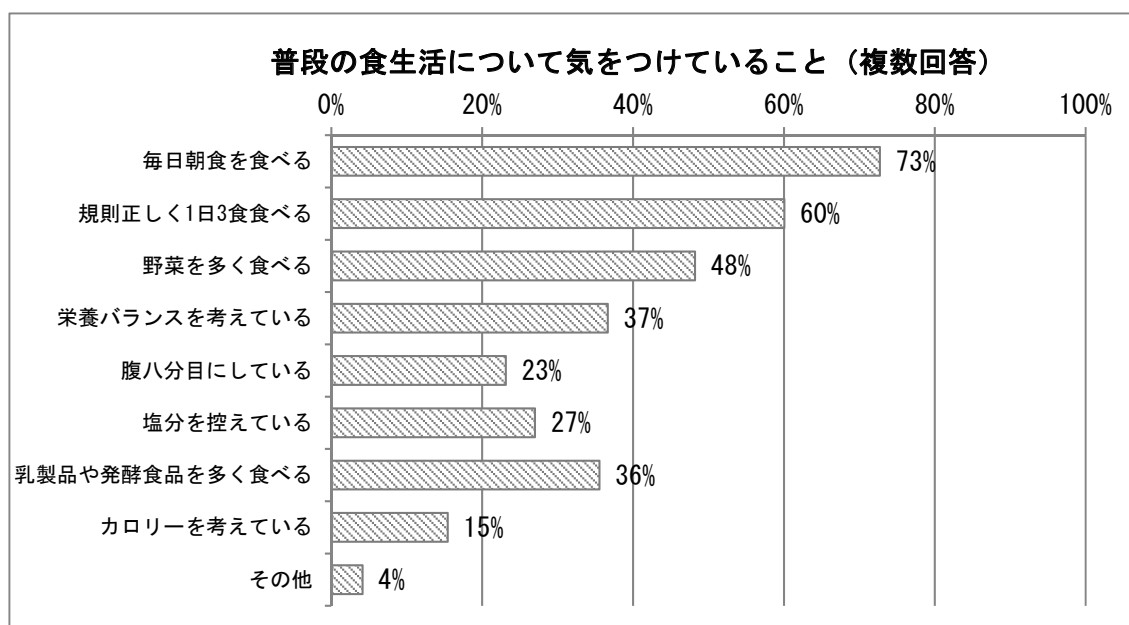
3 分野別の健康実態

〈要約〉幼児期はほとんどの子が朝食を食べているが、20代以上では朝食を食べていない人の割合が高くなる

(1) 食生活・栄養

① 普段の食生活で気をつけていること

普段の食生活で気をつけていることで、一番割合が高いのは「毎日朝食を食べる」の73%、一方、一番割合が低いのは「カロリーを考えている」の15%です。

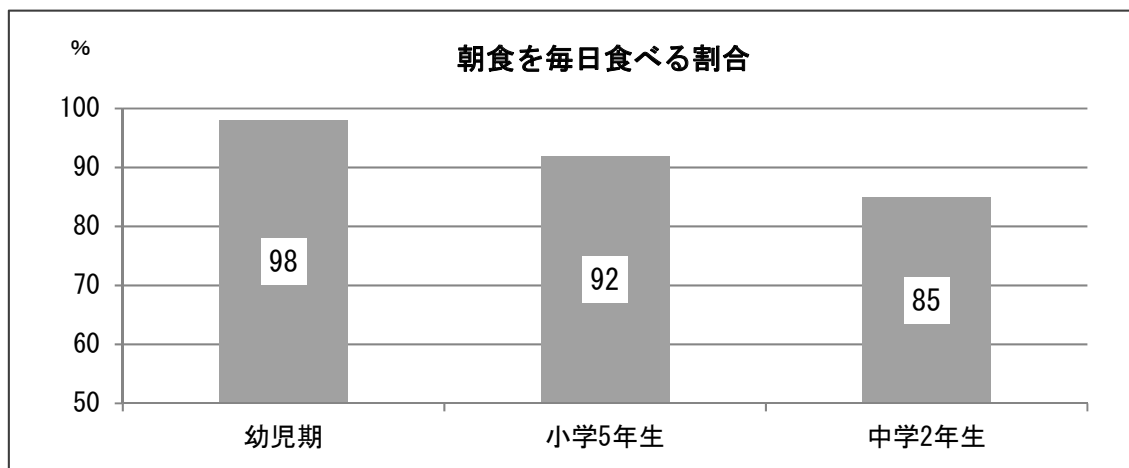


資料：平成29年度健康づくりに関するアンケート

② 朝食について

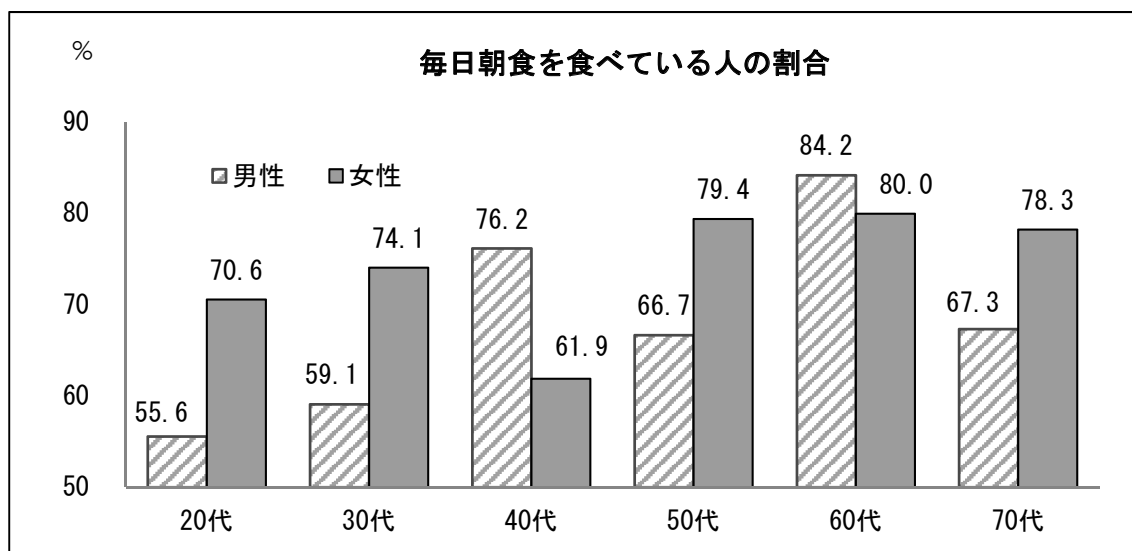
毎日朝食を食べる人は、幼児期では98%であり、ほとんどの子が朝食を食べていますが、20代男性は55.6%と約半数が朝食を食べていません。

◆幼児期・学齢期



資料：平成29年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート及び平成27年度鳥取県学校栄養士協議会

◆成人期



※普通の食生活について気をつけていることとして「毎日朝食を食べる」と回答した人（全体の72.7%）の年代別内訳

資料：平成29年度健康づくりに関するアンケート

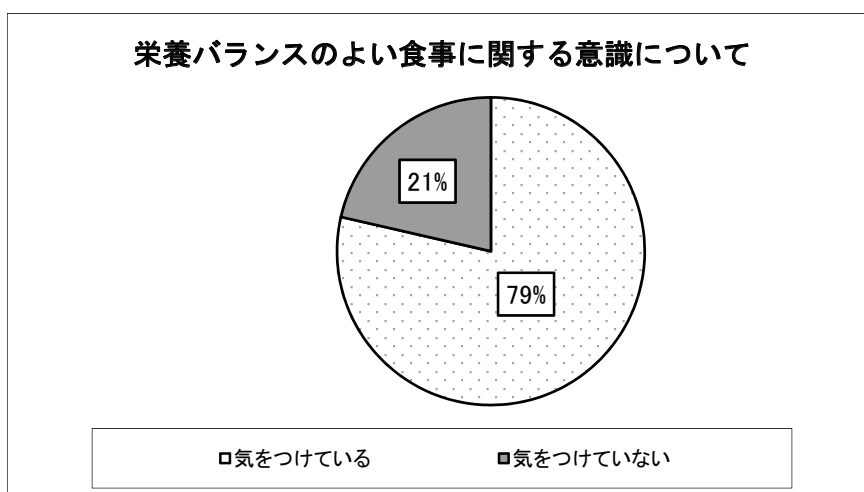
〈要約〉栄養バランスを考えて食べている人は、女性より男性の方が低く、年齢が若いほど割合が低い

③ 栄養バランスについて

栄養バランスを考えて食べている人は、幼児期では79%ですが、20代女性では11.8%と最も低くなっています。成人期の傾向としては、女性と比較し男性が低く、年齢が若いほど低くなっています。

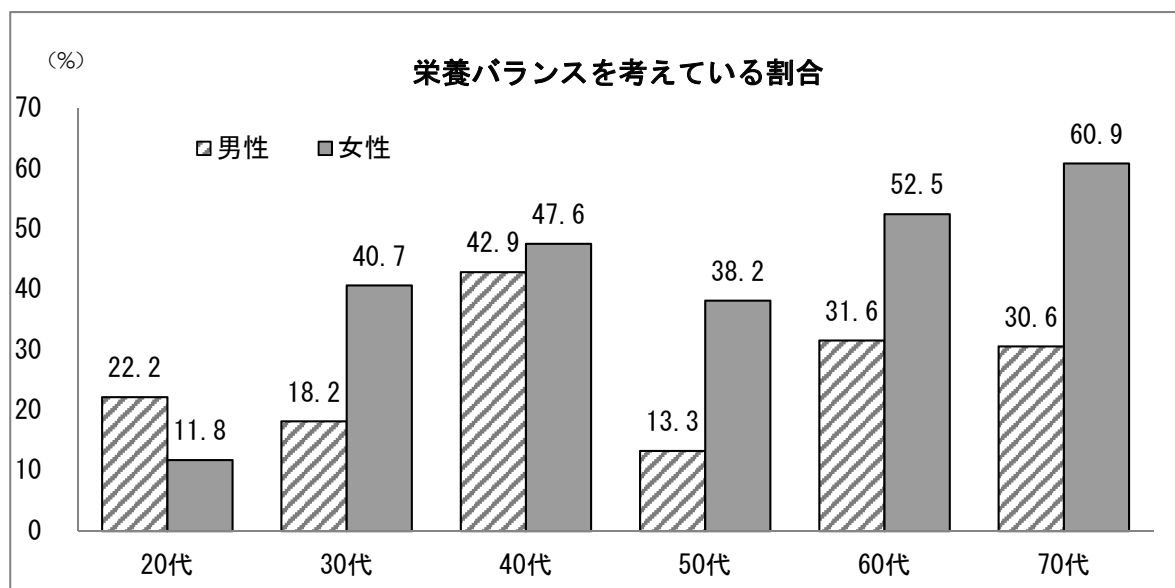
また、実際に主食、主菜、副菜をそろえた食事を1日1食以上食べている人は約93.8%ですが、年齢が若い人ほどその割合は低くなっています。（1日1食以上そろえる 市平均93.8%、県平均87.8%）

◆幼児期



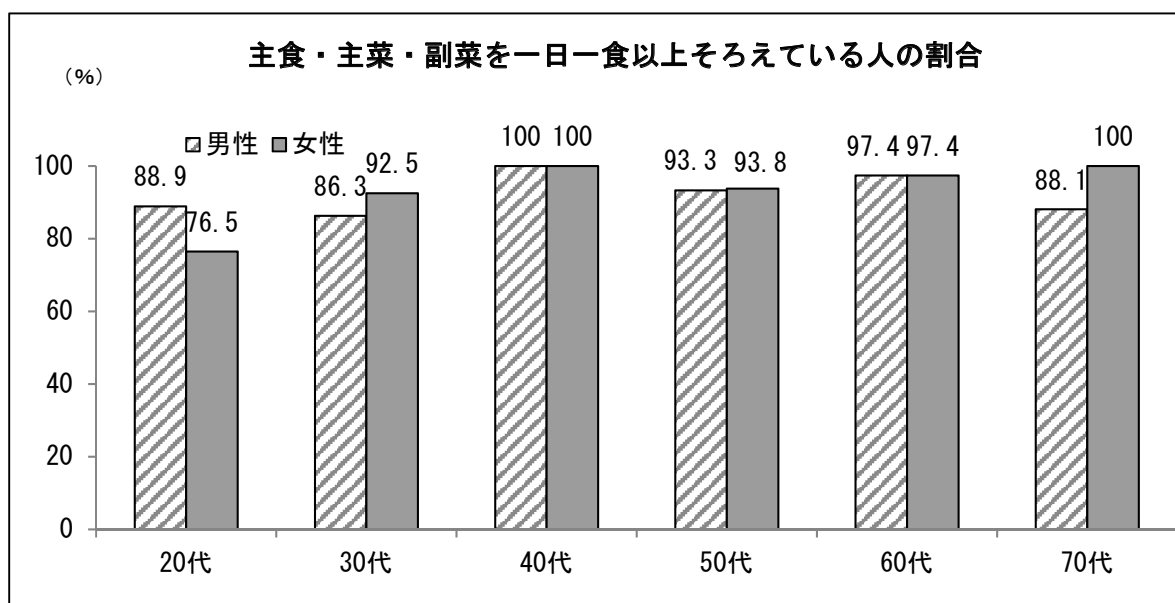
資料：平成29年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート

◆成人期



※普段の食生活について気をつけていることとして「栄養バランスを考えている」と回答した人（全体の36.8%）の年代別内訳

資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート



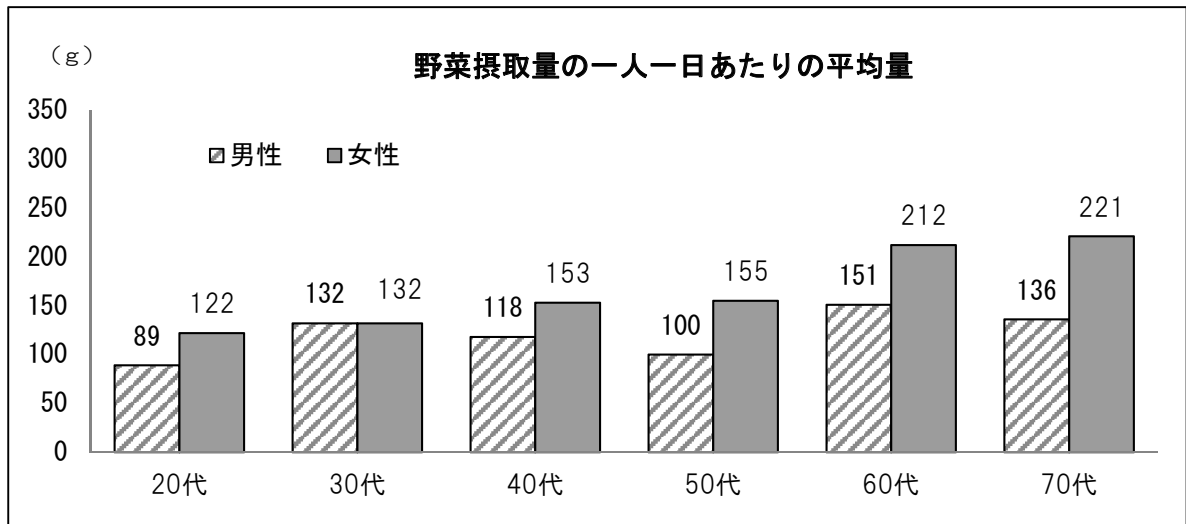
資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート

〈要約〉野菜の一日摂取量は、女性より男性の方が少なく、
年齢が若いほど摂取量が少ない。

④ 野菜摂取量について

野菜の一日摂取量の平均は、国が示す一人一日あたりの目標量の 350g に対して、半分以下の状況にあります。女性と比較し男性の摂取量が少なく、年齢が若い人ほど摂取量が少ない状況です。

(県平均 280g)

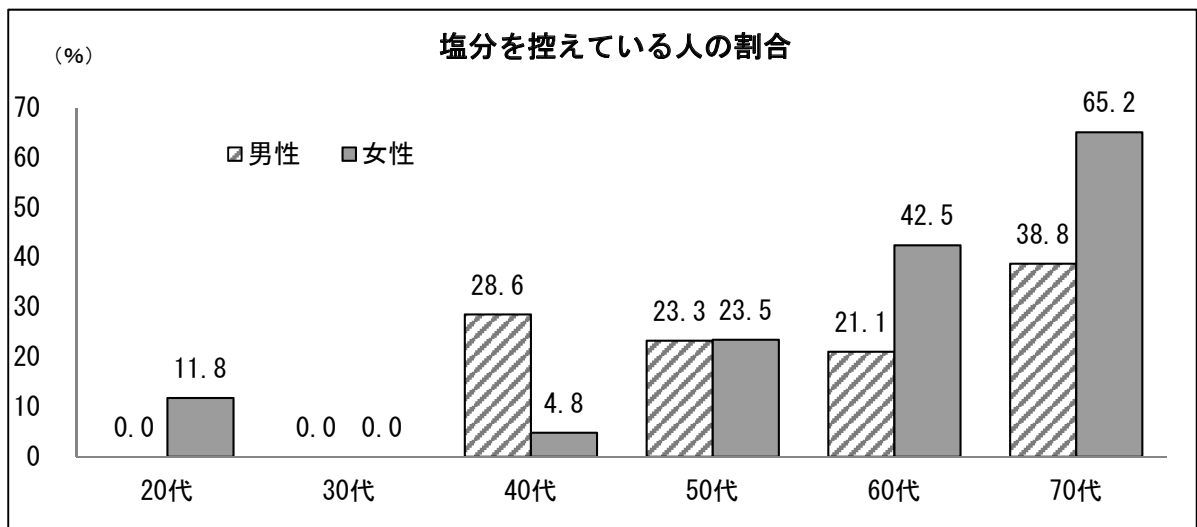


※回答の「1皿未満 50g、1皿 70g、2皿 140g、3皿 210g、4皿 280g、5皿以上 350g、ほとんど食べない 20g」とした一人あたりの平均量

資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート

⑤ 塩分について

塩分を控えている人は、70代女性が 65.2%と一番多く、年齢が上がるにつれ、増加傾向にあります。



※普段の食生活について気をつけていることとして「塩分を控えている」と回答した人（全体の 27.0%）の年代別内訳

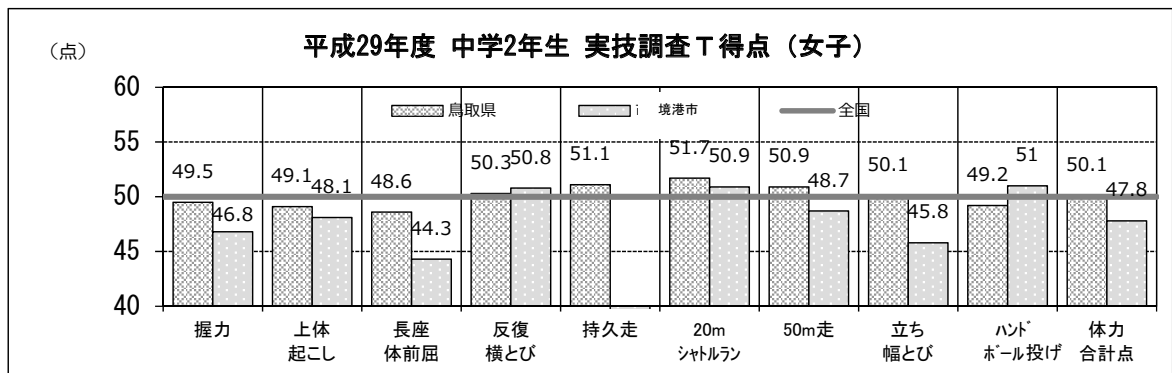
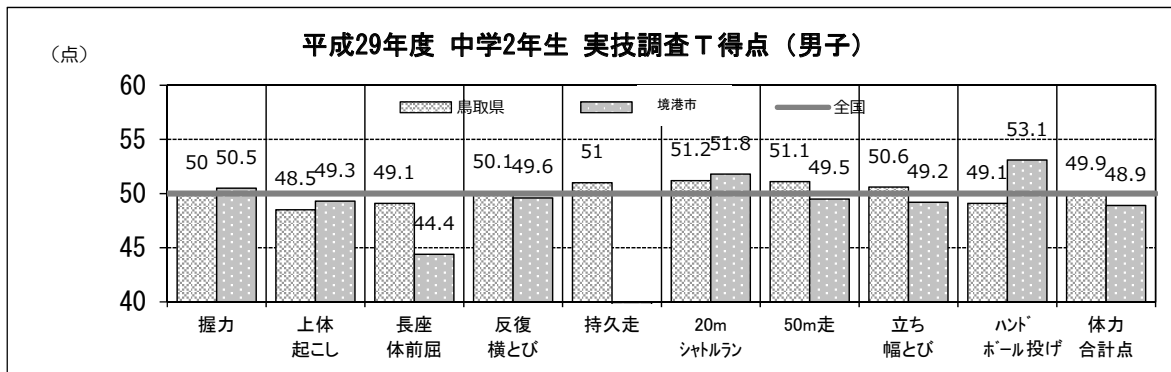
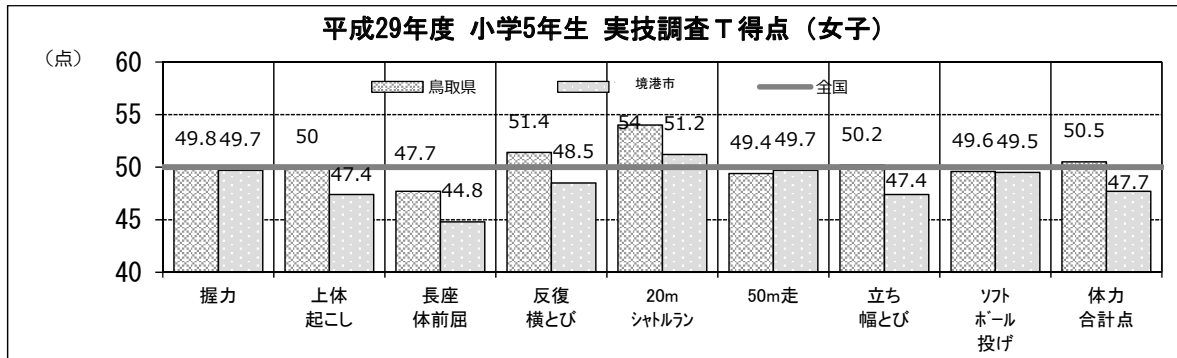
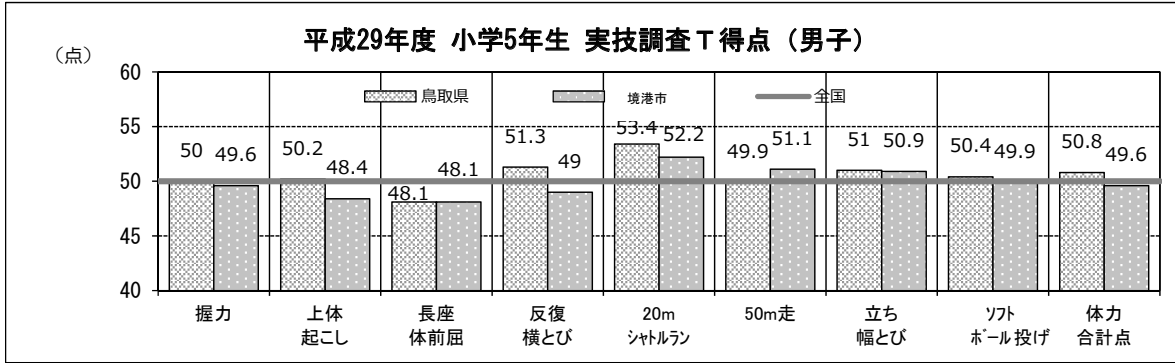
資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート

(2) 運動・身体活動

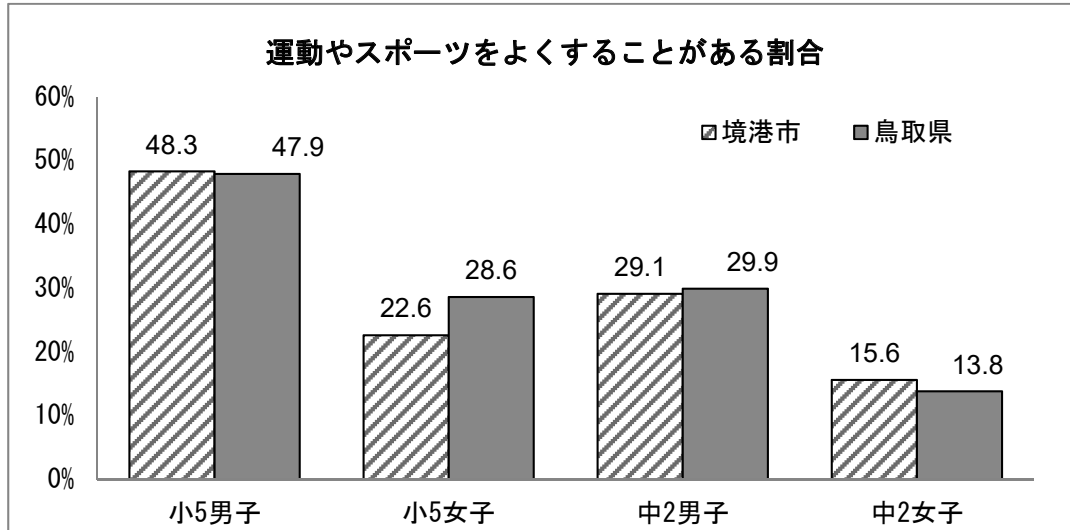
① 小学生、中学生の運動状況

小学5年生、中学2年生ともに、体力合計点や、柔軟性を示す、長座体前屈T得点が全国、県平均と比較し、低い傾向にあります。

また、放課後や学校が休みの日に、部活動や地域のスポーツ以外で運動をよくすることがある人は、小学5年生男女と中学2年生男女では、中学2年生女子が15.6%と一番低くなっています。



資料：平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣調査



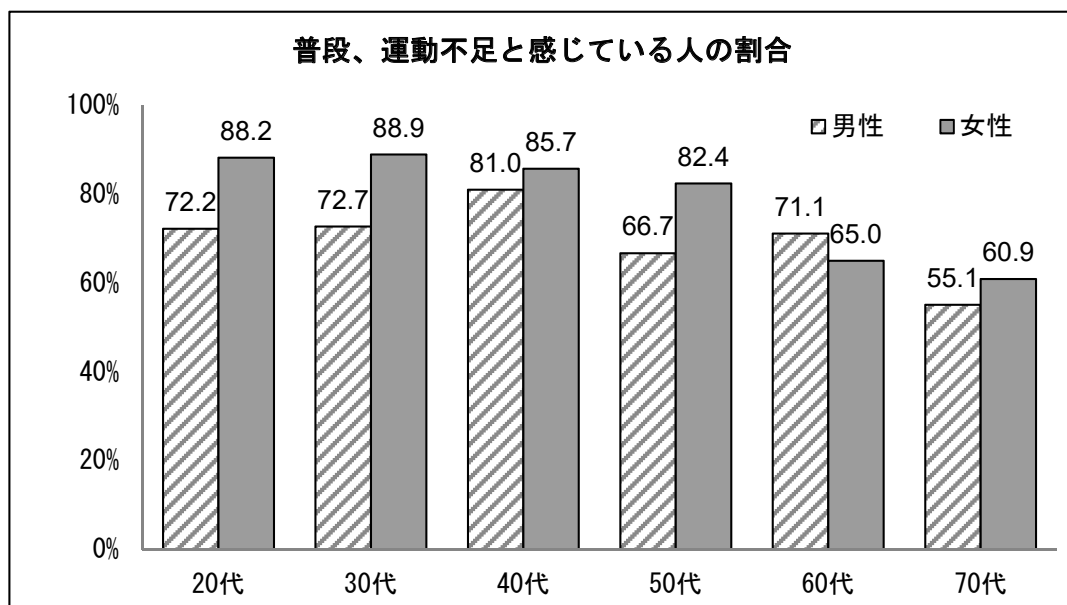
資料：平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査

〈要約〉運動不足と感じている人の割合は、年齢が若いほど高い

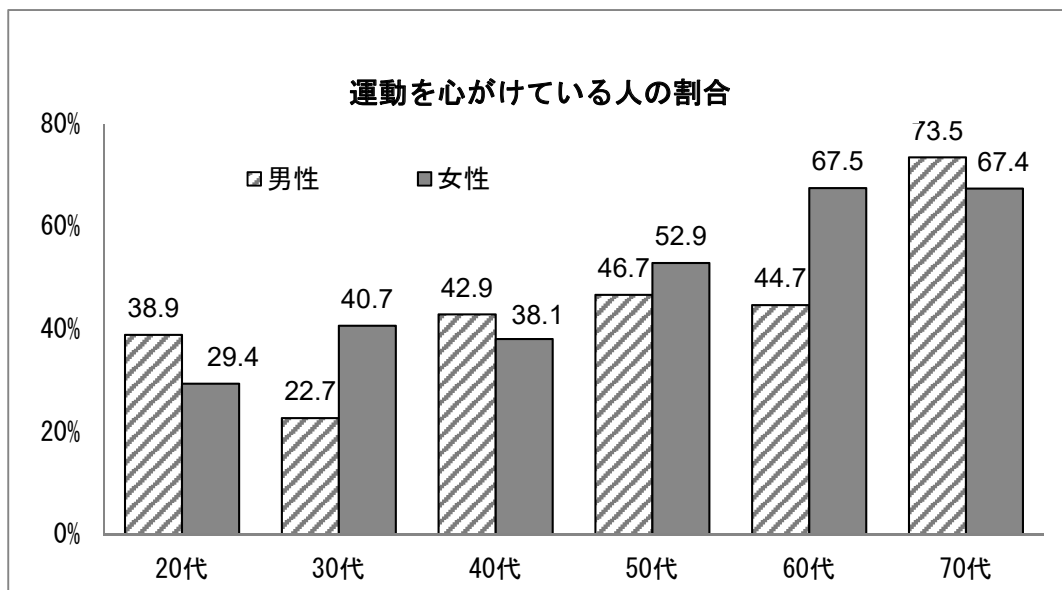
② 運動に関する意識について

普段、運動不足と感じている人の割合は、市全体で71.3%であり、年代別では、20代女性が88.2%と一番高く、70代男性が55.1%と一番低い状況です。年齢が若いほど、割合が高くなっています。

また、運動を心がけている人は、70代男性が73.5%と一番高く、30代男性が22.7%と一番低くなっています。



資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査



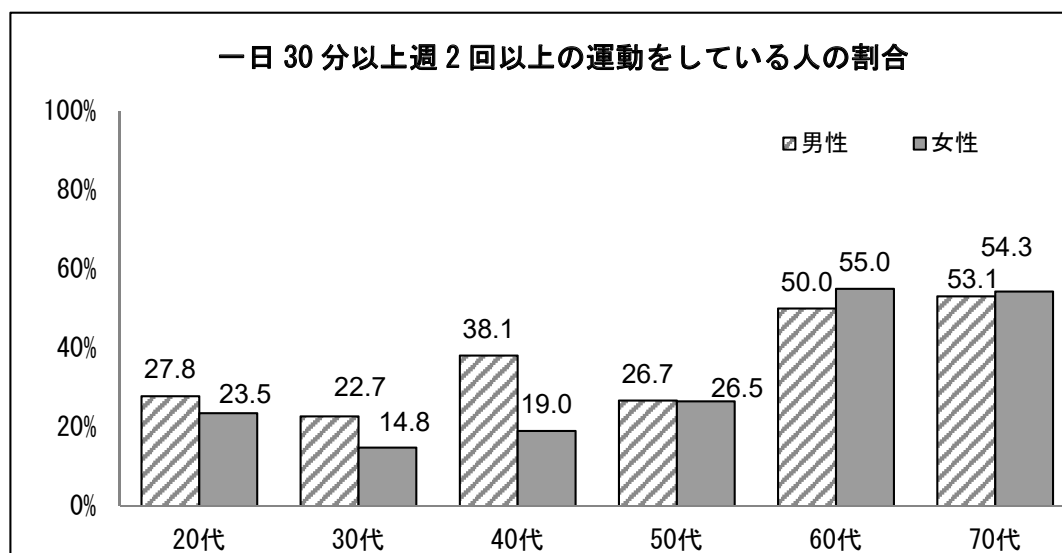
資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

<要約>一日 30 分以上週 2 回運動している人の割合は、
 年齢が若いほど低い

③ 運動の取り組み状況について

一日 30 分以上週 2 回の運動をしている人の割合は、市全体で 38.3%（県 23.7%）であり、年代別では、60 代女性が 55%と一番高く、30 代女性が 14.8%と一番低い状況です。年齢が若いほど、割合が低くなっています。

※県は「一日 30 分以上、週 2 回以上、一年以上継続している」と回答した割合



資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

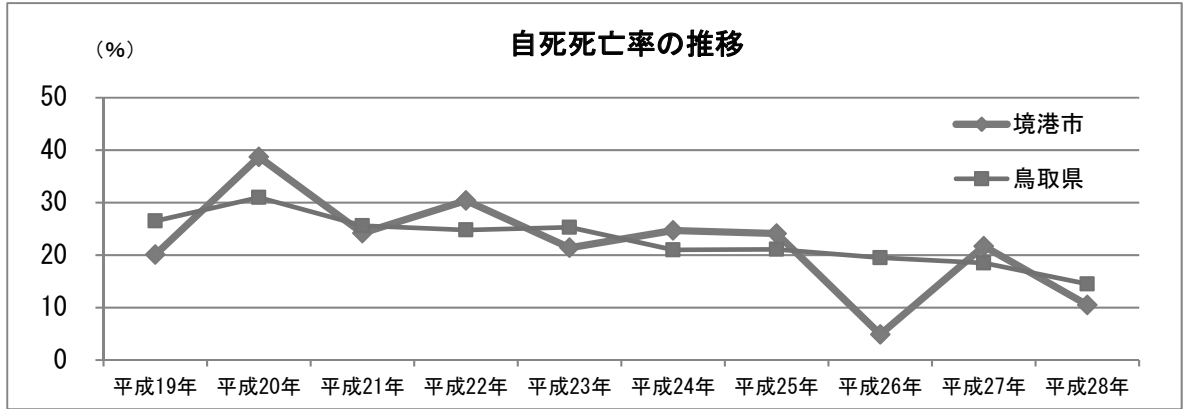
(3) ころ・休養

<要約>男性、30代~50代に自死で亡くなる人が多い傾向がある

① 自死の状況

◆自死死亡率（人口10万人当たりの自死者数）の推移

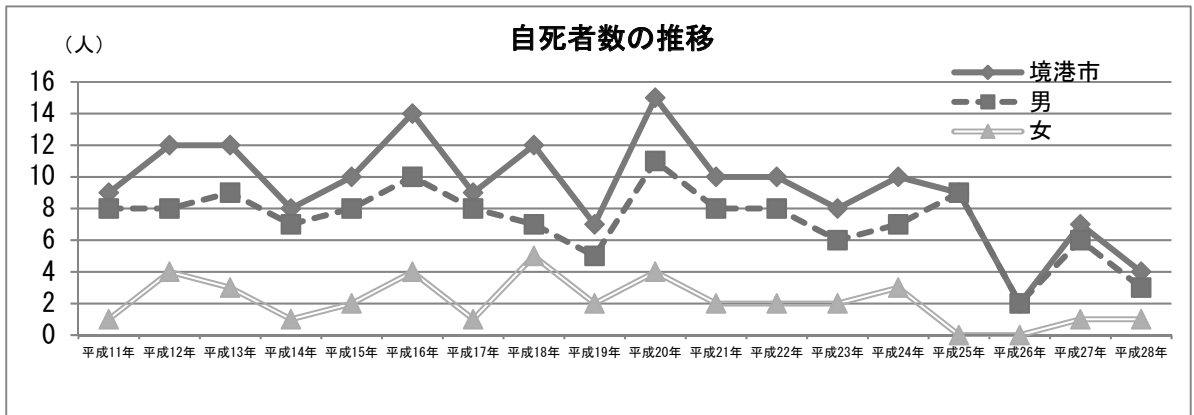
本市の自死者数は、最も多かった平成20年から減少傾向で推移しています。



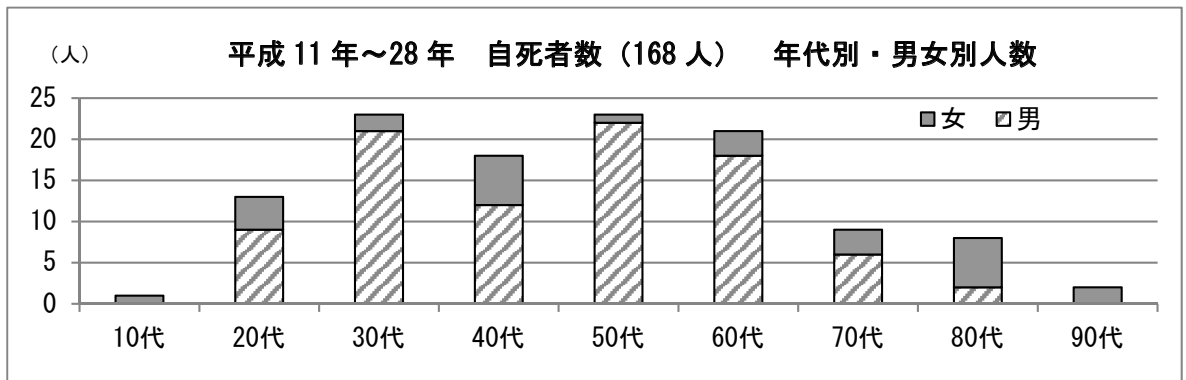
資料：人口動態統計

◆自死者数の推移

本市の自死者数は、平成20年度の15人をピークに全体的には減少傾向にあり、平成28年度には4人となっています。年代・男女別にみると、性別では男性が多く、年代では30代、50代の自死者が多い傾向にあります。



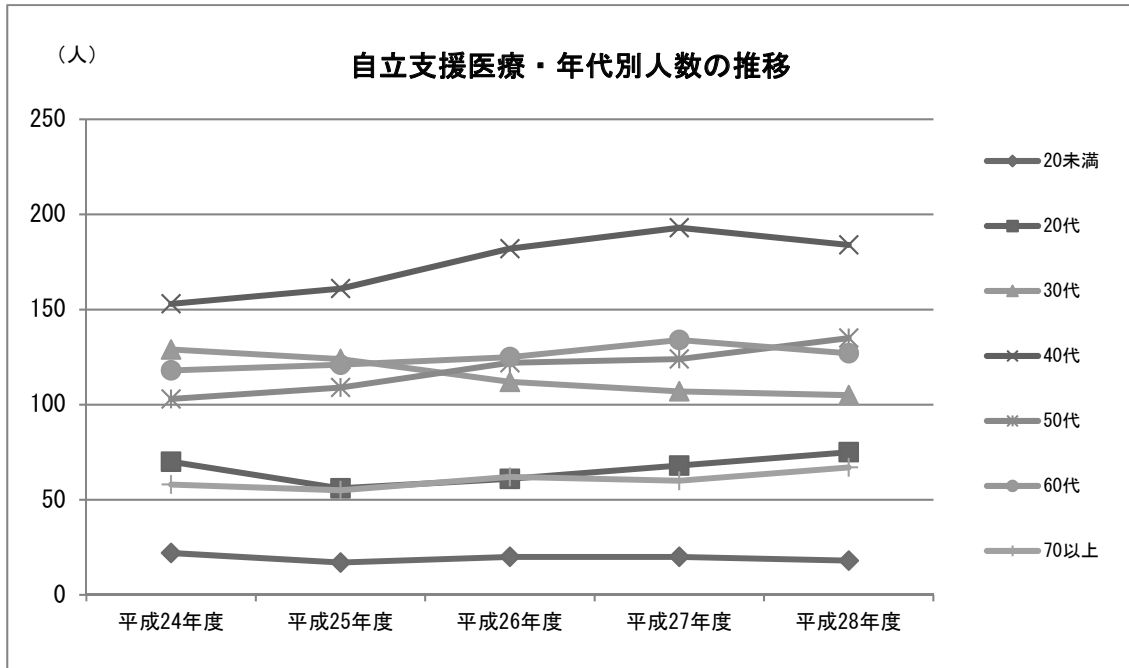
資料：人口動態統計



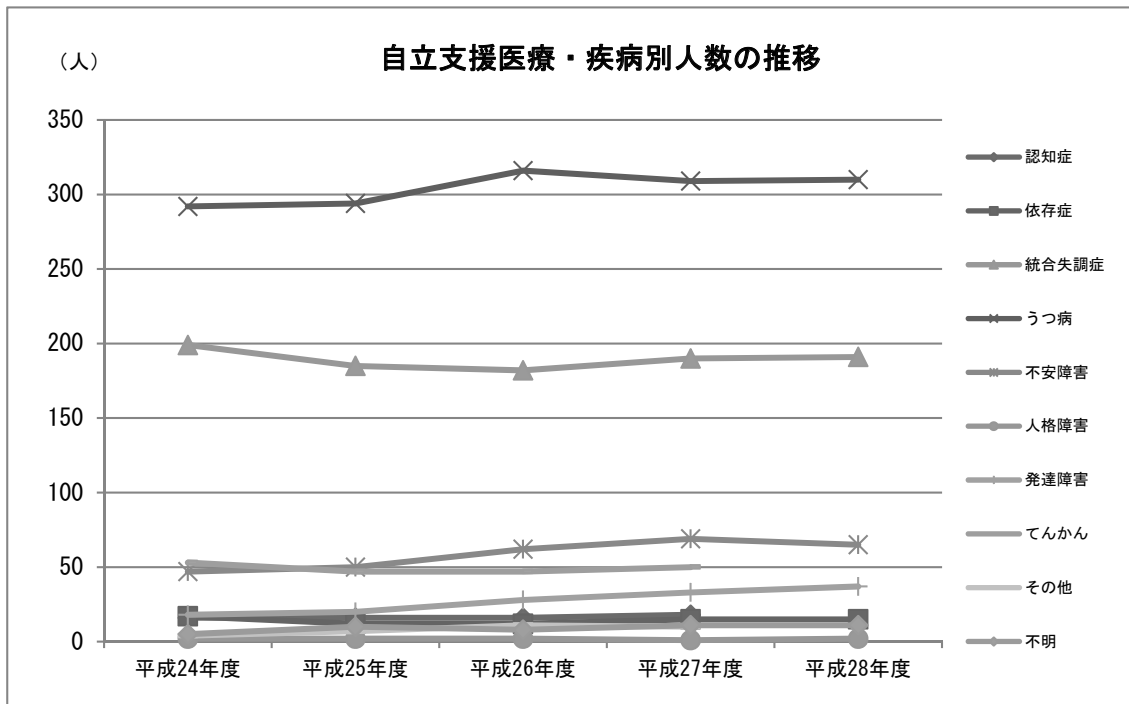
資料：人口動態統計

② 自立支援医療（精神通院）の状況

自立支援医療は40代の占める割合が年々増加しています。疾病ではうつ病の割合が高くなっていきます。



資料：健康推進課



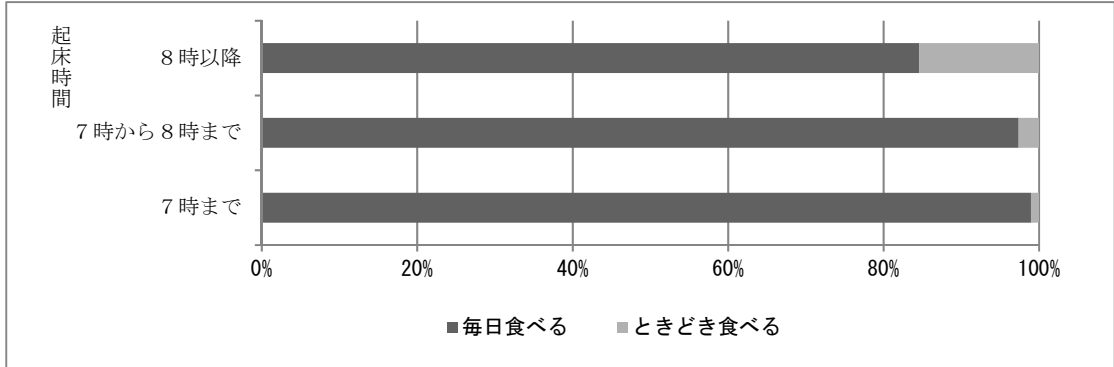
資料：健康推進課

＜要約＞起床時間の遅い子は、朝食を毎日食べる割合が低い

③ 幼児期の生活習慣の状況

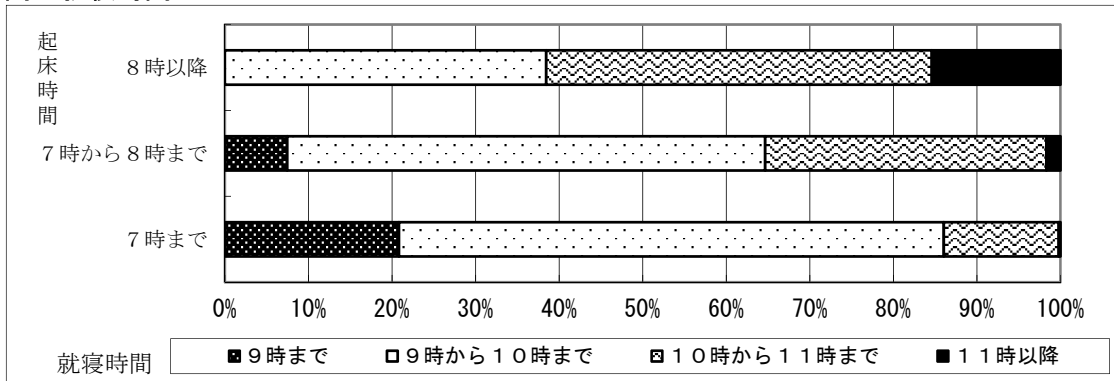
幼児期の生活習慣をみると、起床時間が遅い子ほど朝食を毎日食べている子の割合が低く、起床時間が遅い子ほど就寝時間も遅く、就寝時間が遅い子ほど排便が毎日ない子の割合が高くなっています。

◆朝食習慣と起床時間について



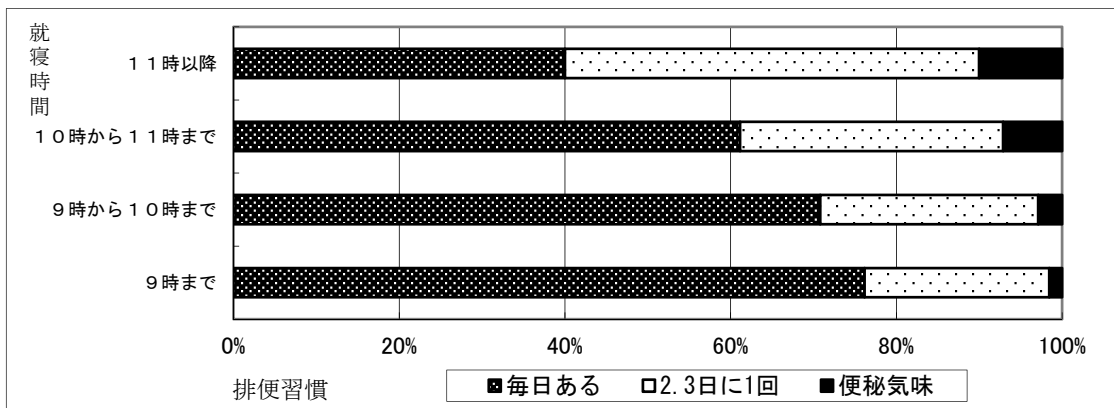
資料：平成 29 年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート

◆起床時間と就寝時間について



資料：平成 29 年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート

◆就寝時間と排便習慣について



資料：平成 29 年度幼児の生活習慣と食に関するアンケート

＜要約＞成人期に適切な睡眠時間が確保できていない
人の割合は40代が一番多い

④ 睡眠について

小学6年生の睡眠時間が8時間未満の割合が平日で13.2%、23時以降に就寝する割合が、平日で13.2%となっています。

また、こころや身体の不調については、「ふとんに入って30分以上眠れない」「朝眠くて起きられない」の睡眠に関して「かなりある」「少しある」と回答した人が約2～3割います。

成人期では、適切な睡眠時間は6～8時間とされていますが、6時間未満の人の割合は、40代男性が一番高い状況となっています。

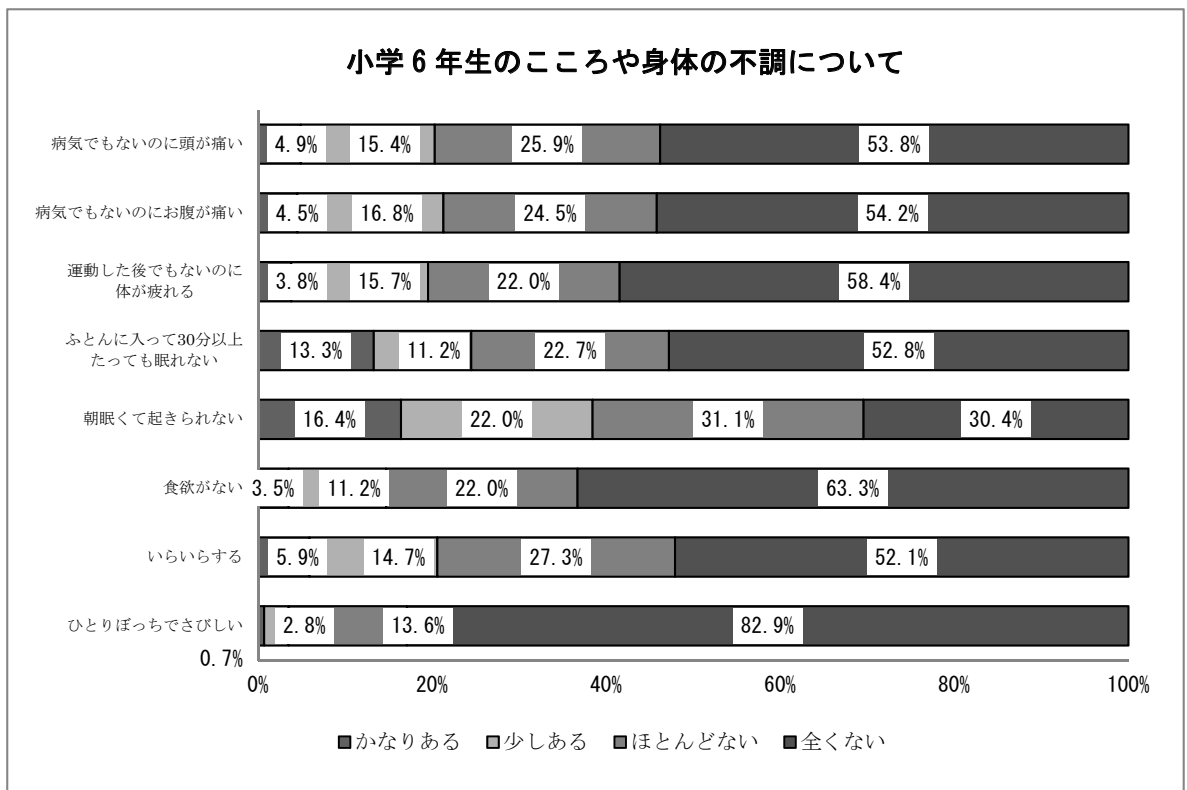
普段の睡眠で休養が十分取れている人の割合は13.2%と県の23.2%より低く、特に年齢が若い人ほどあまりとれていない傾向があります。

◆学齢期

小学6年生の平日と土曜日の睡眠時間と就寝時間 (%)

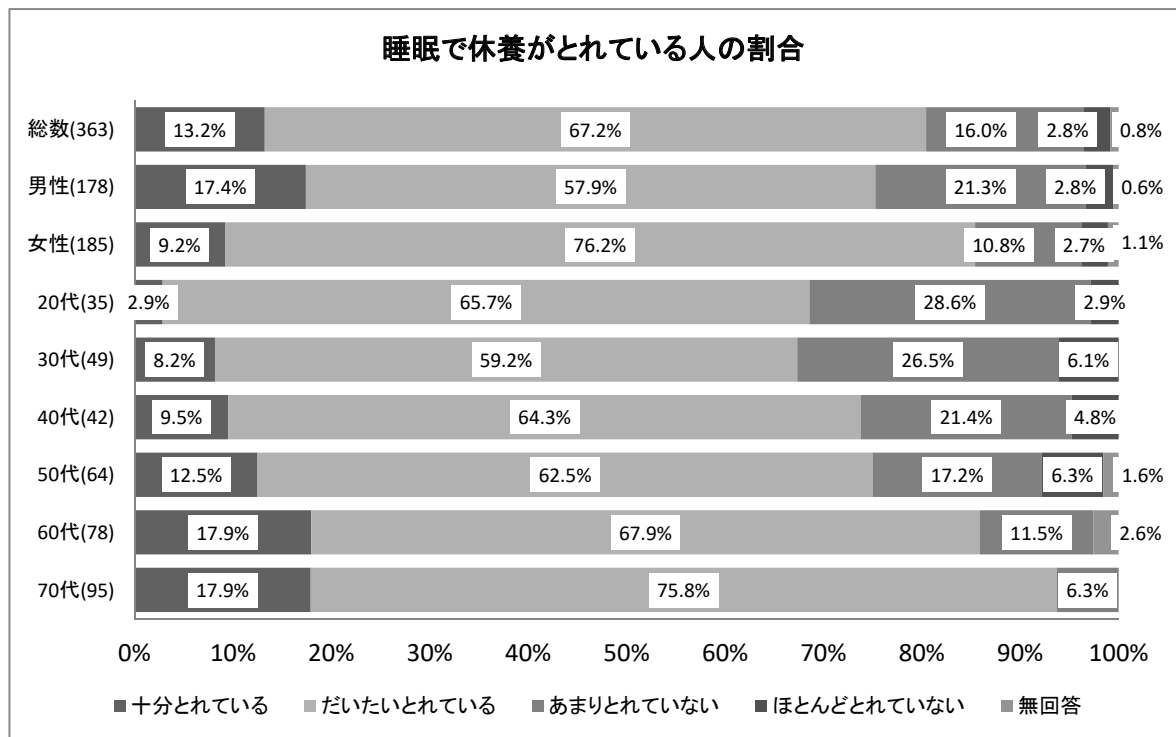
		平日	土曜日
睡眠時間	8時間未満	13.2	14.0
	8時間以上	86.7	85.6
就寝時間	23時以降	13.2	34.9

資料：平成29年度小学6年生こころとからだの健康アンケート

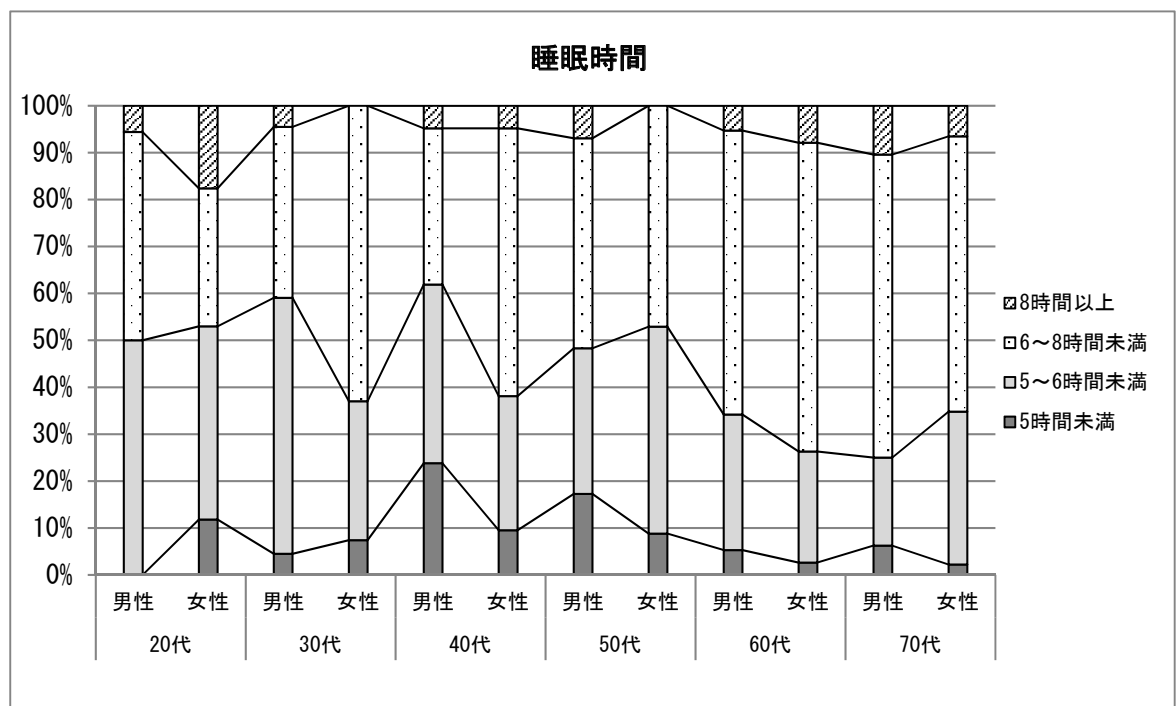


資料：平成29年度小学6年生こころとからだの健康アンケート

◆成人期



資料：平成 29 年度境港市健康づくりに関するアンケート調査



資料：平成 29 年度境港市健康づくりに関するアンケート調査

<要約>50代がストレスを感じている人が多い一方、
ストレスを解消できていない割合も高い

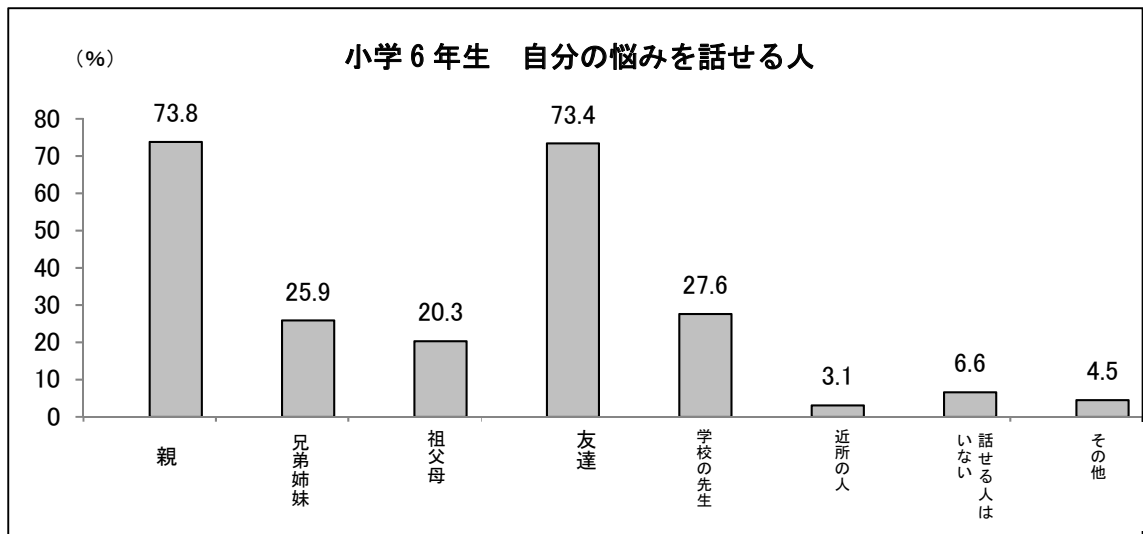
⑤ ストレスや悩みについて

小学6年生で、自分の悩みを話せる人については、6.6%の人が「いない」と回答しています。

成人期では、ストレスが「大いにある」「多少ある」人の割合は、全体の約8割となっており、「解消できている」「だいたい解消できている」人の割合は約5割となっています。50代がストレスを感じている人が多い一方、解消できていない割合が一番多い傾向にあります。

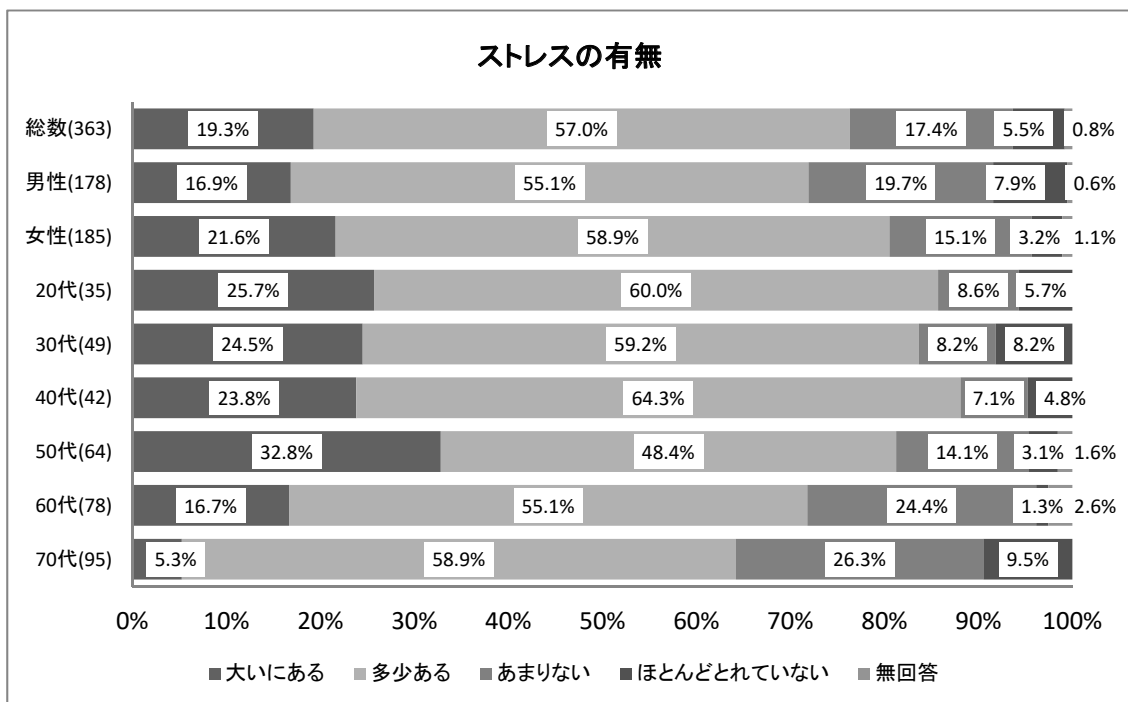
ストレスや悩みがあるときの相談相手の有無について、市全体で13.5%の人が「いない」と回答しています。また、全年代で女性よりも男性が「いない」人の割合が高くなっています。

◆学齢期

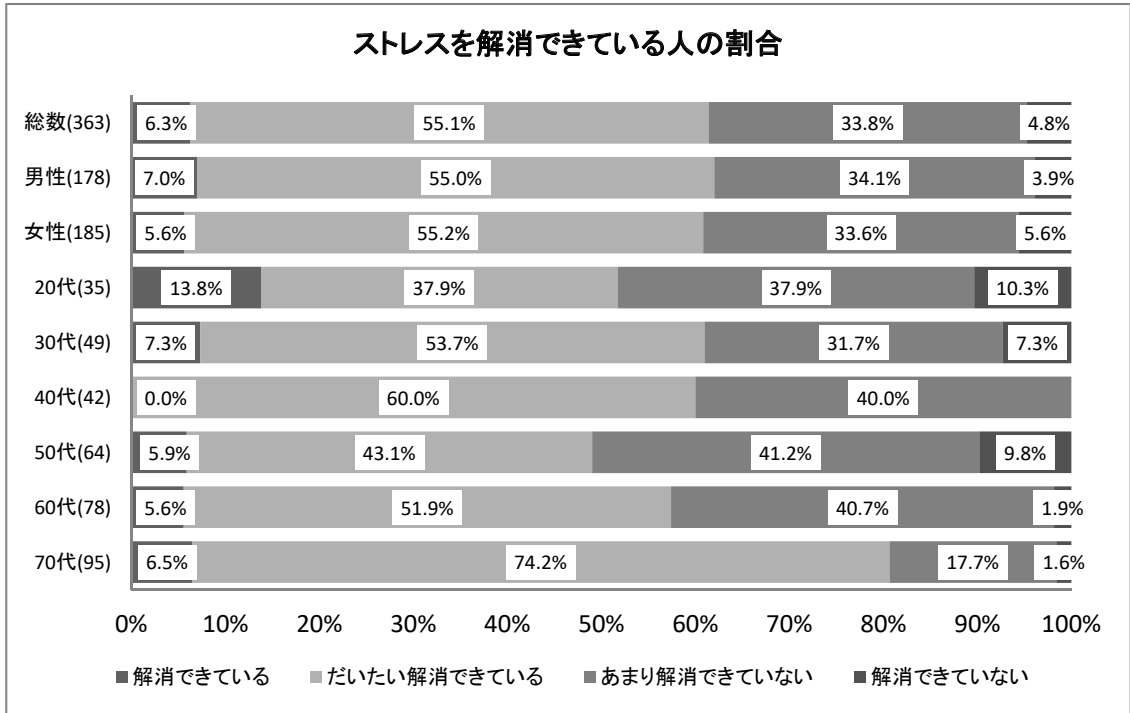


資料：平成29年度小学6年生こころからの健康アンケート

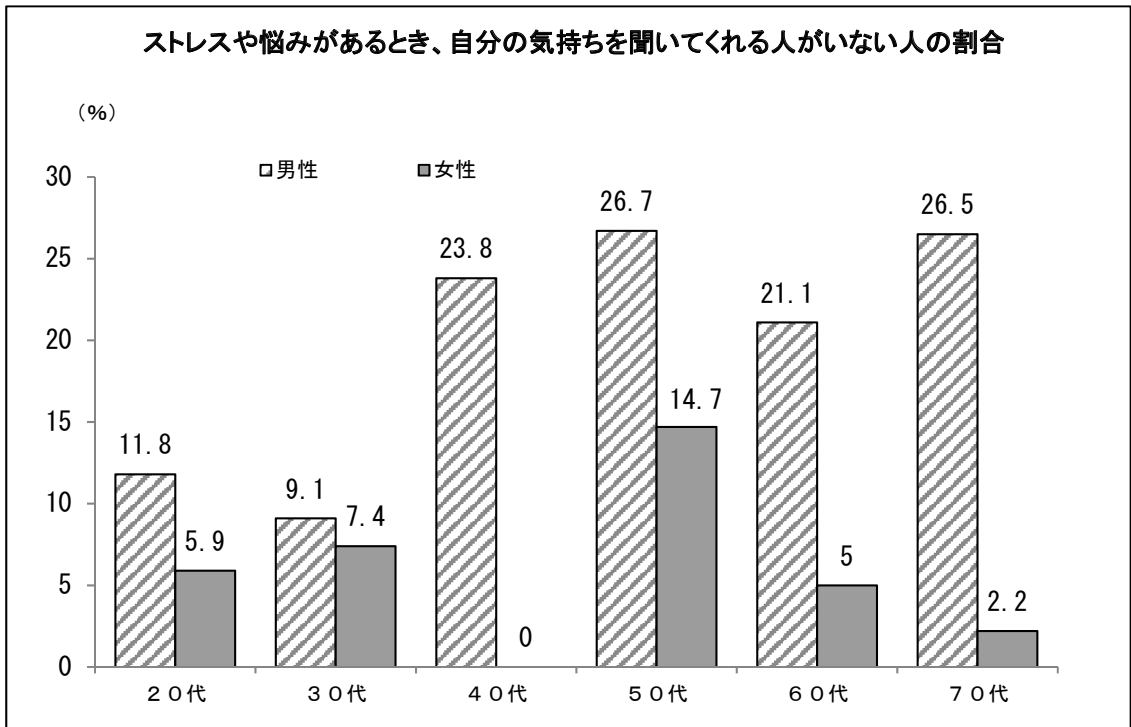
◆成人期



資料：平成29年度健康づくりに関するアンケート調査



資料：平成 29 年度境港市健康づくりに関するアンケート調査



資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

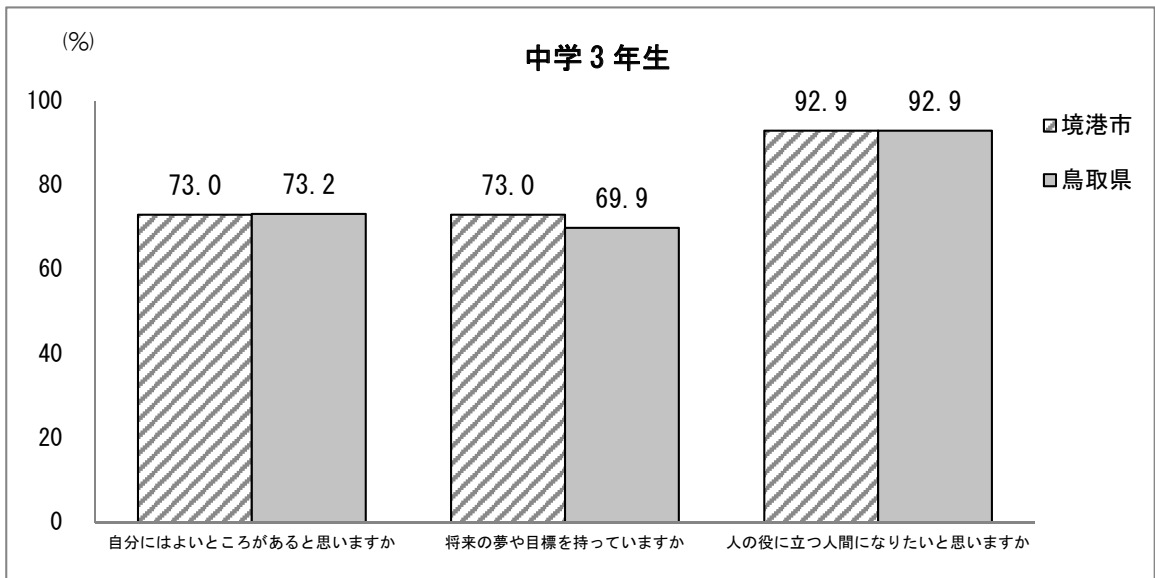
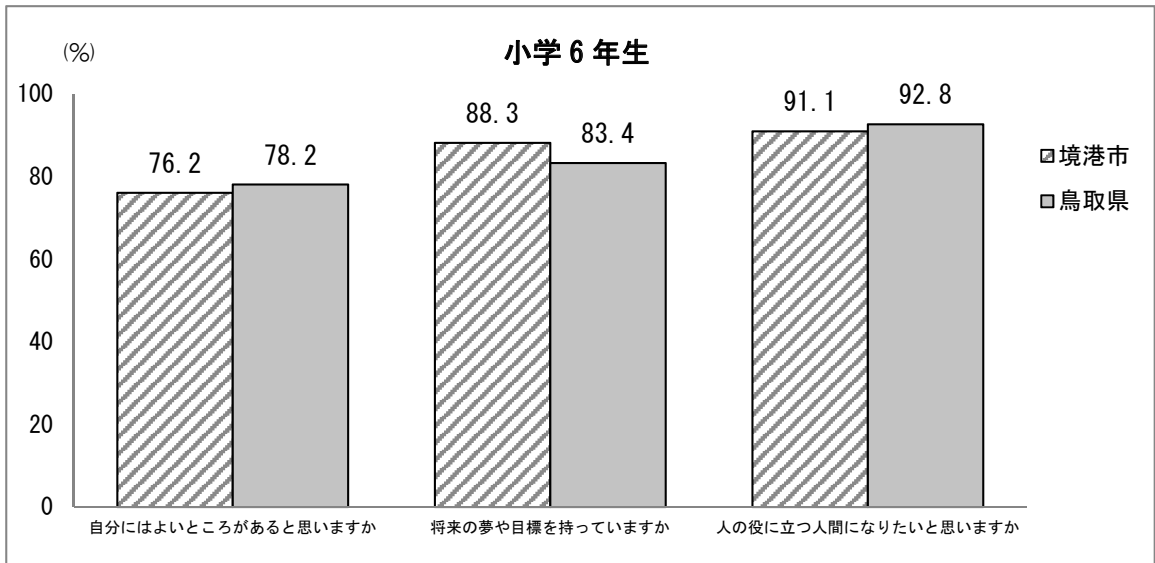
＜要約＞自分の悩みを話せる人がいると、自己肯定感や自己役立感が強い傾向がある

⑥ 自己肯定感や自己役立感について

小学6年生、中学3年生の「将来の夢や目標を持っていますか」の自己肯定感や自己役立感の状況は、県と比較し高くなっています。

また、自分の悩みを話せる人がいると自己肯定感や自己役立感が強い傾向がみられます。

◆小学6年生、中学3年生の自己肯定感や自己役立感の状況（「はい」と回答した人の割合）



資料：平成29年度全国学力・学習状況調査児童質問紙調査

◆自己肯定感や自己役立感と悩みを話せる人との関係について

		合計	とても弱い	弱い	強い	とても強い
全体		286人	28人	78人	121人	59人
		100%	9.8%	27.3%	42.3%	20.6%
自分の悩みなどを話せる人 (○の数)	いない	5人	3人	1人	1人	0人
		100%	60%	20%	20%	0%
	1~2人	170人	21人	55人	65人	29人
		100%	12.4%	32.4%	38.2%	17.1%
	3人	69人	3人	17人	36人	13人
		100%	4.3%	24.6%	52.2%	18.8%
	4人以上	42人	1人	5人	19人	17人
		100%	2.0%	12%	45%	40%

資料：平成 29 年度小学6年生こころとからだの健康アンケート

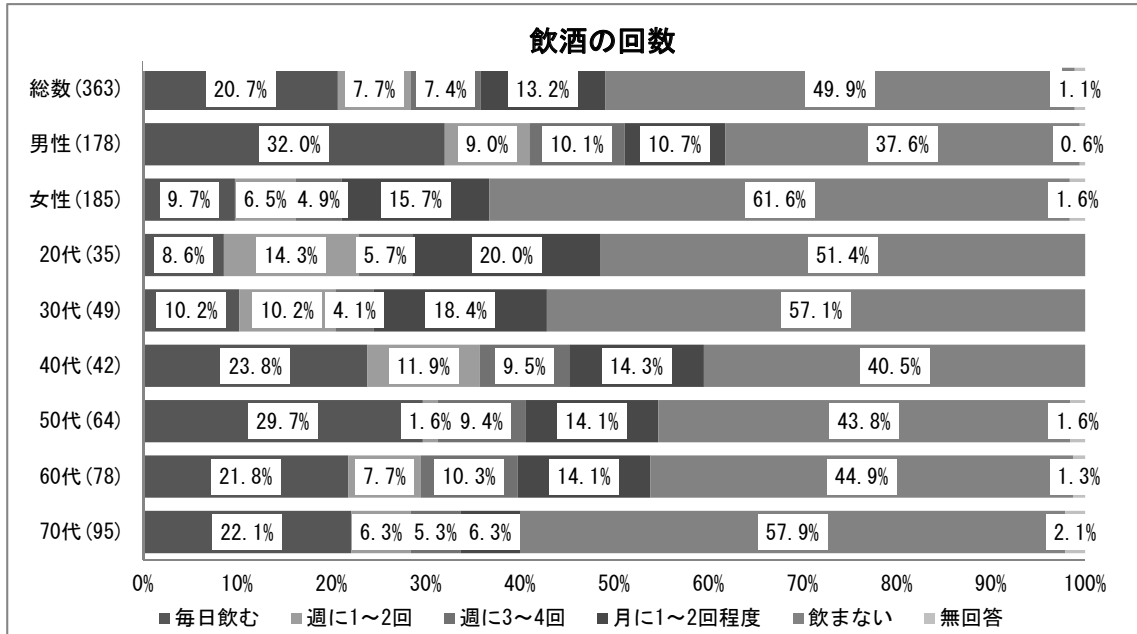
(4) 飲酒・喫煙

<要約>男性、特に50代の毎日の飲酒割合が高い

① 飲酒

◆飲酒回数について

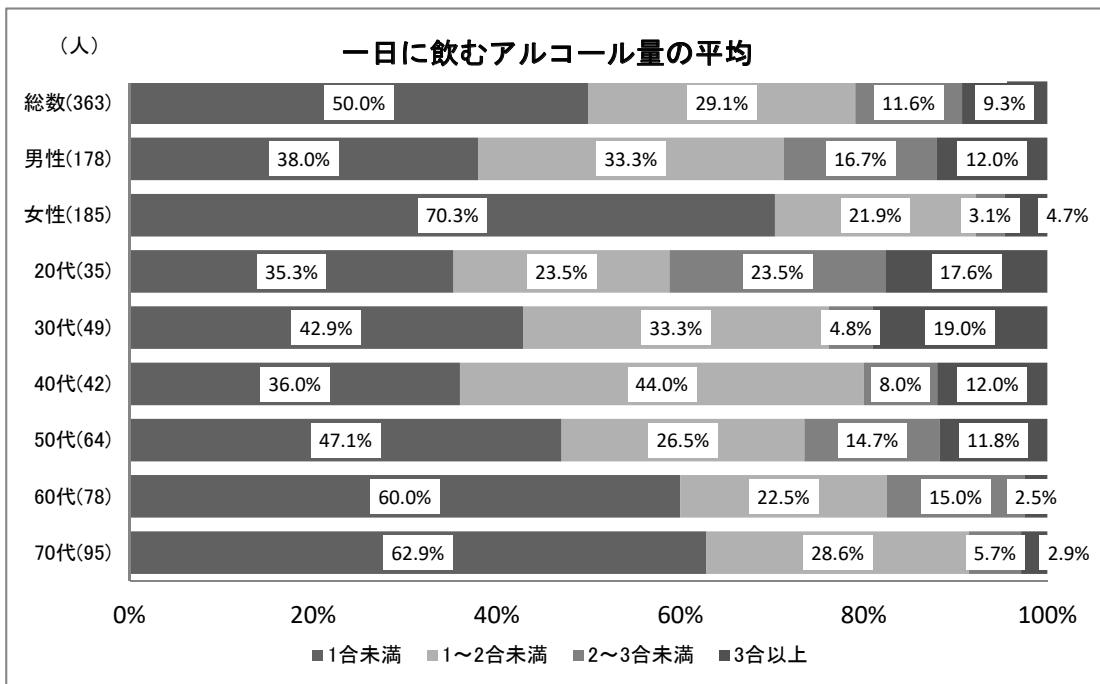
飲酒習慣について、20.7%が毎日飲むと回答し、県の19.9%とほぼ同じ状況です。毎日飲む割合は、男性の方が高く、年代別では、50代が29.7%と一番高くなっています。



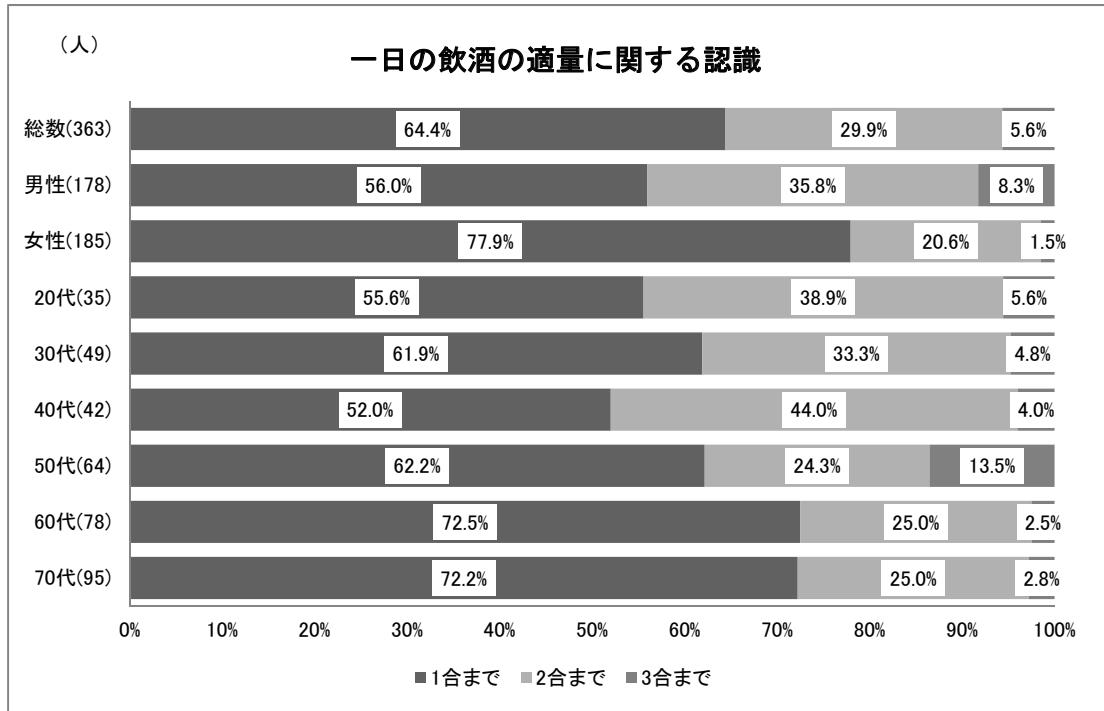
資料：平成29年度健康づくりに関するアンケート調査

◆飲酒の量と適正量の認識について

3合以上飲む人は9.3%であり、県の10.2%とほぼ同じ状況です。半数の人は適正飲酒量である1合までと答え、適正飲酒量についての認識も、約6割近くの人が「1合未満が適量」と答えています。



資料：平成29年度健康づくりに関するアンケート調査



資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

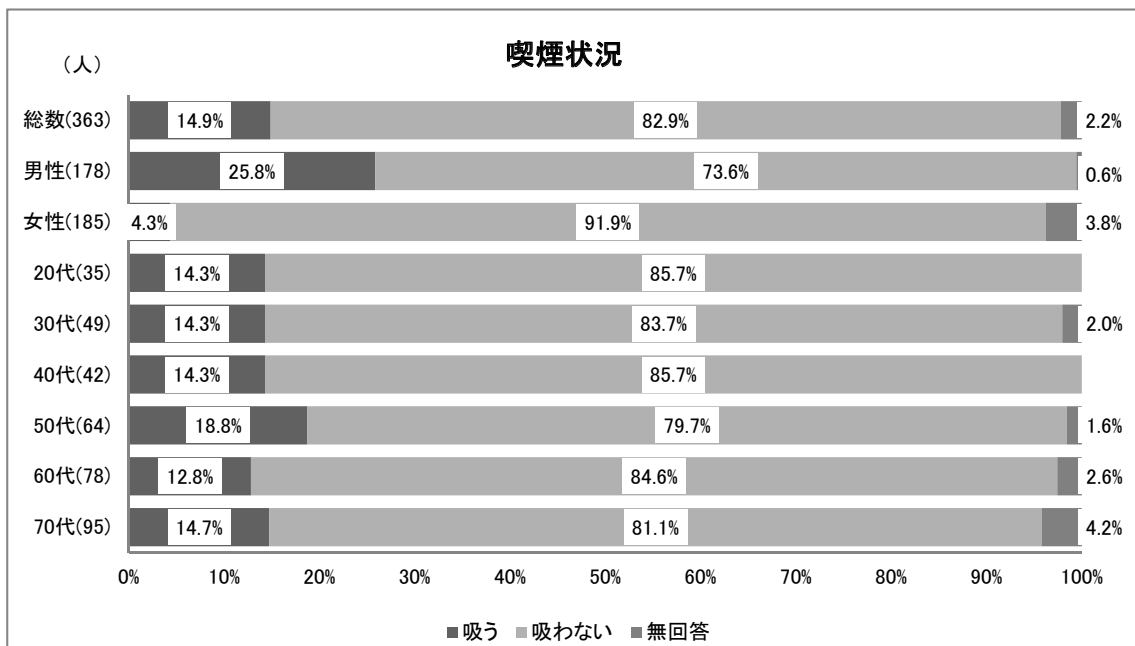
② 喫煙

◆喫煙状況について

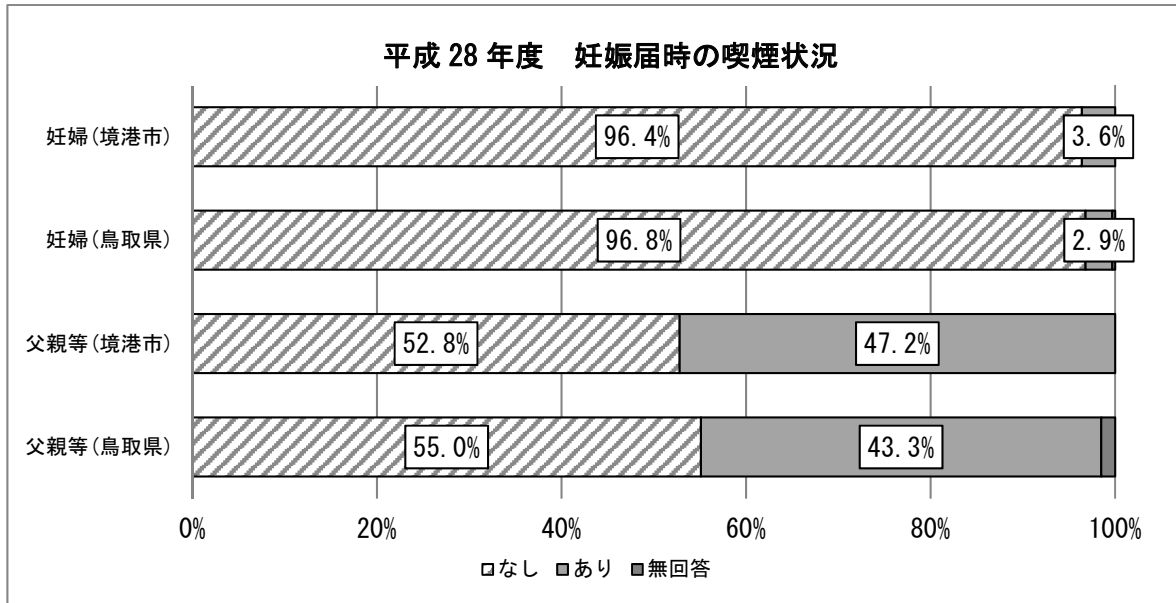
〈要約〉妊婦の喫煙がみられる

喫煙している人は 14.9%であり、県の 30.4%より低い傾向にあります。妊娠届時の喫煙状況では、喫煙している妊婦は 3.6%、父親等（同居家族）が 47.2%と県と比べて割合が高くなっています。

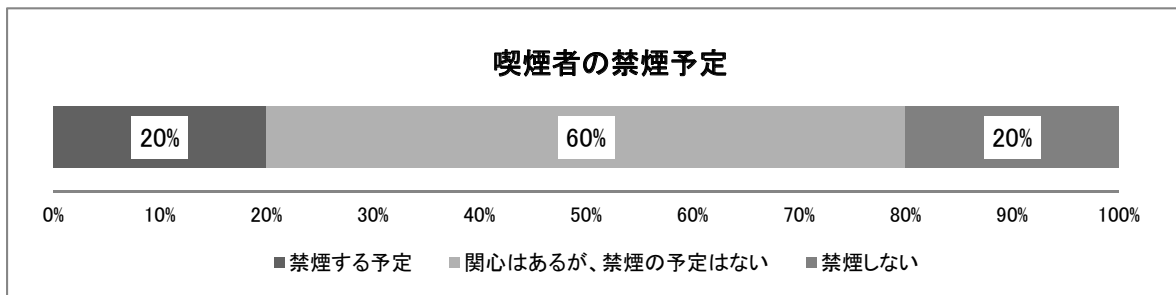
喫煙している人で、禁煙の予定があるかについて、「関心はあるが、禁煙の予定はない」と答えた人が、60.0%います。



資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査



資料：健康推進課



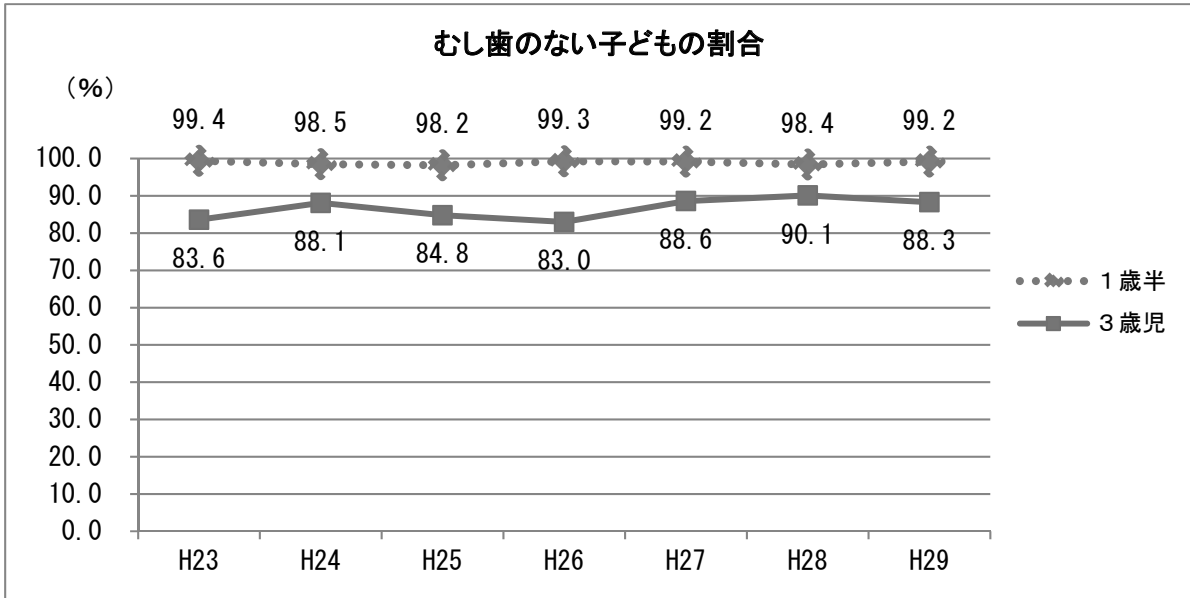
資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

(5) 歯・口腔

＜要約＞幼児期か年齢が上がるにつれ、むし歯罹患率は上昇し、中学生から減少する

① むし歯のない子どもの割合

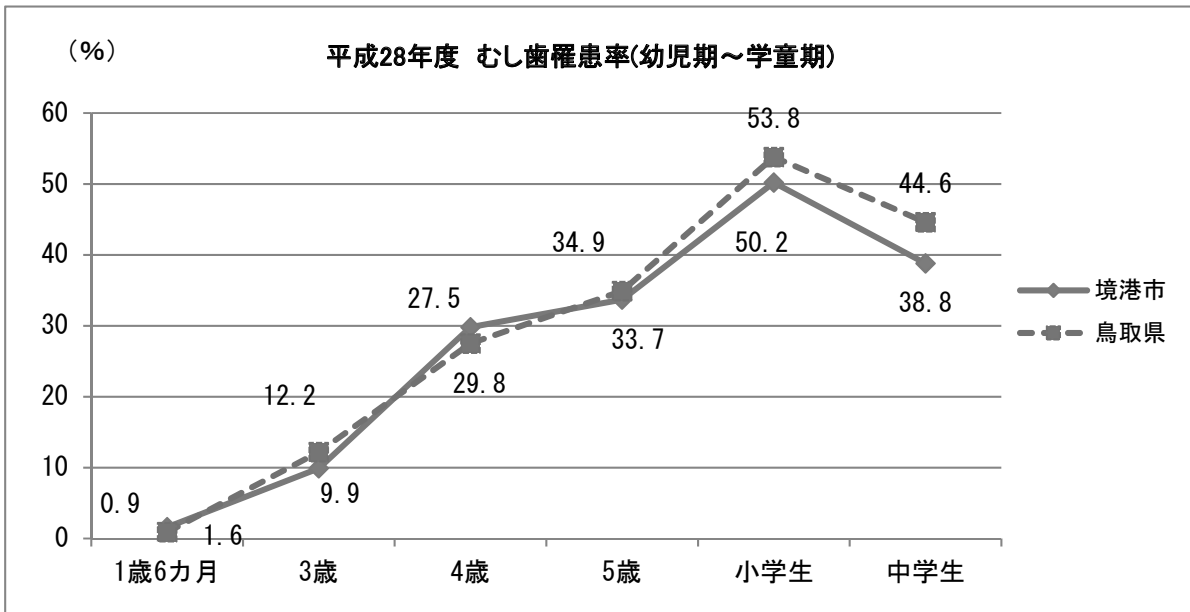
1歳6か月児及び3歳児の歯科健診の結果から、むし歯のない子どもの割合を年次推移で見ると高い水準でほぼ横ばいの状況です。



資料: 1歳6か月児及び3歳児の歯科健康診査結果

② むし歯罹患率（幼児期～学齢期：県との比較）

幼児期から年齢が上がるにつれ、むし歯罹患率は上昇していますが、大人の歯に生えかわる中学生から減少します。県とほぼ同じ割合で推移しています。

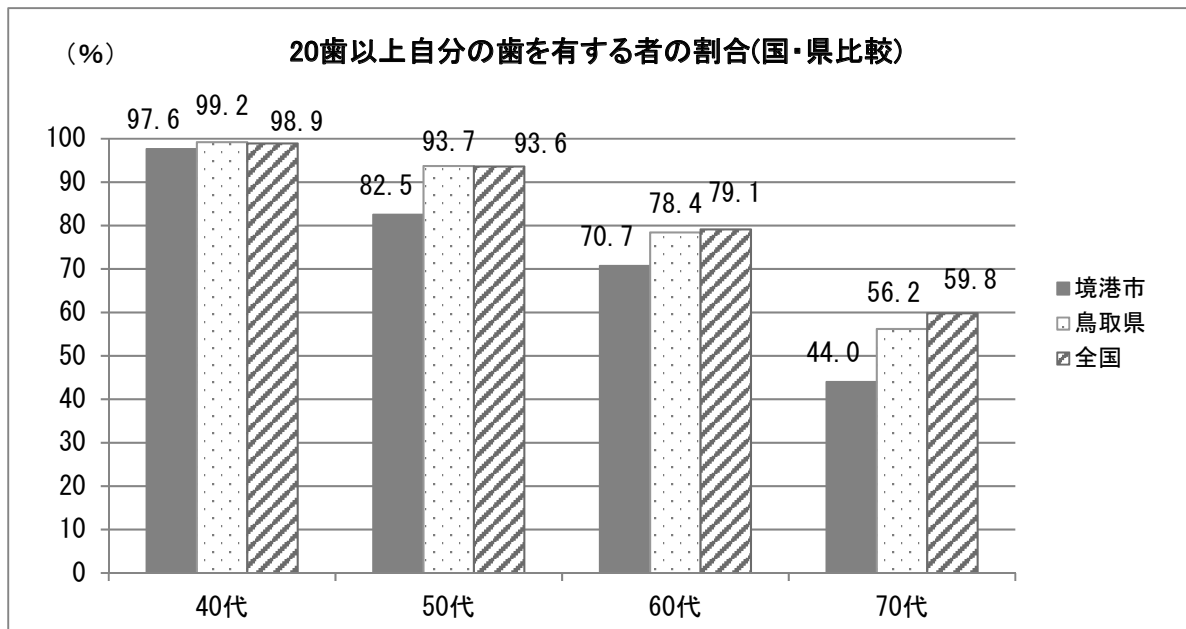


資料: 鳥取県西部地域歯科保健推進協議会資料

③ 20歯以上自分の歯を有する者の割合（国・県比較）

＜要約＞20歯以上、自分の歯を有する人は成人期で低い

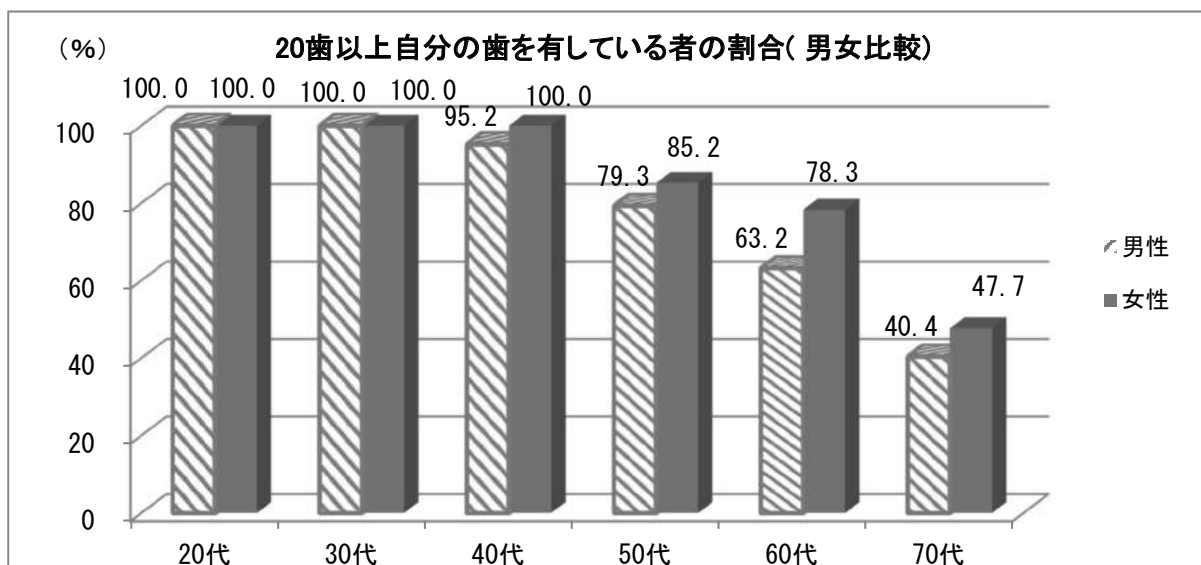
20歯以上自分の歯を有する者の割合は、国・県と比較して、成人期の全ての年代で低い割合となっています。



資料：厚生労働省「平成 28 年歯科疾患実態調査」及び「鳥取県民歯科疾患実態調査」及び「平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査」

④ 20歯以上自分の歯を有する者の割合（境港市 男女比較）

男性より女性の方が、20歯以上自分の歯を有している割合が高くなっています。



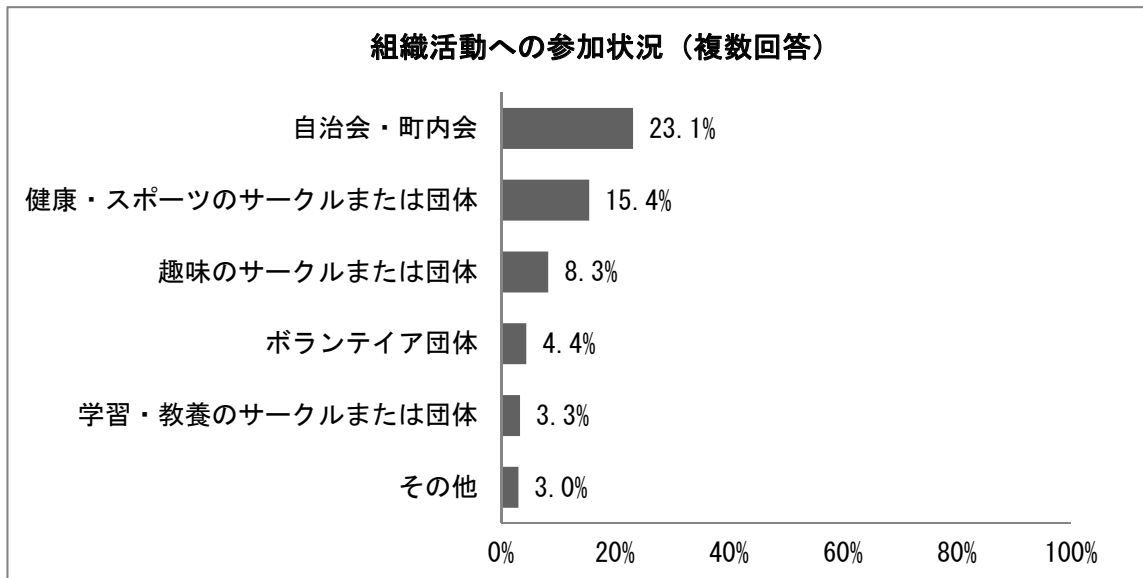
資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

(6) 生きがい・社会参加

◆組織活動への参加状況

＜要約＞組織活動参加では自治会活動、健康・スポーツ活動が多い

地区組織活動の参加状況については、自治会・町内会が最も多くて 23.1%、次いで、健康・スポーツのサークルまたは団体の 15.4%です。



資料：平成 29 年度健康づくりに関するアンケート調査

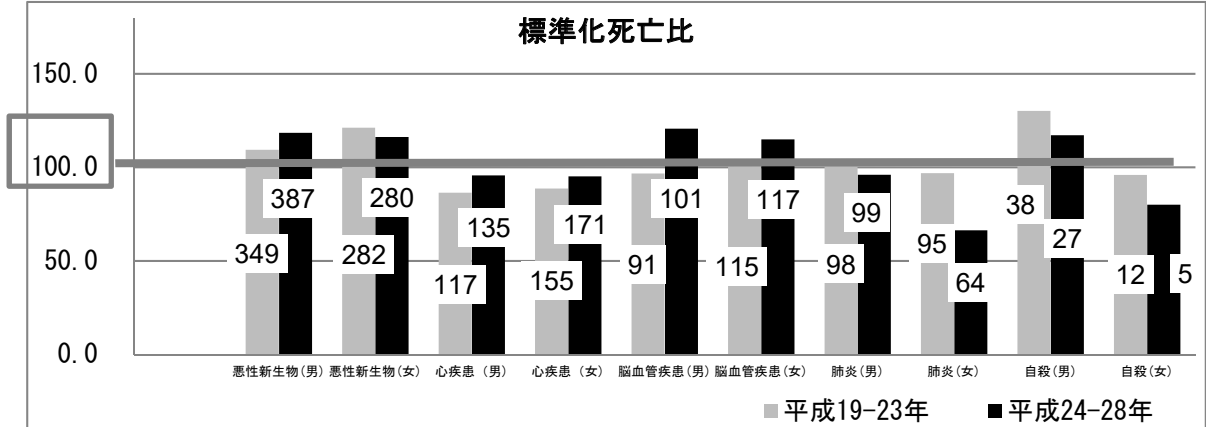
(7) 疾病の発症・重症化予防

<要約>男女とも、がん、脳血管疾患の死亡比が全国平均よりも高く死亡数も多い

① 標準化死亡比・標準化罹患比

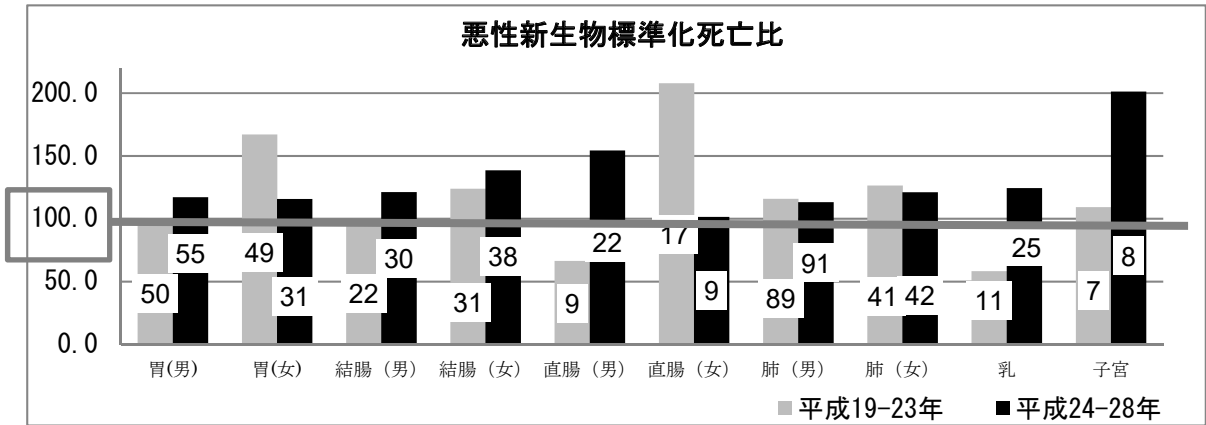
本市の標準化死亡比は、男女とも悪性新生物、脳血管疾患が全国平均（100）より高く、死亡者数も多いです。脳血管疾患は増加傾向です。

また、がんの標準化罹患比は、全国平均（100）より高いものも目立ちます。



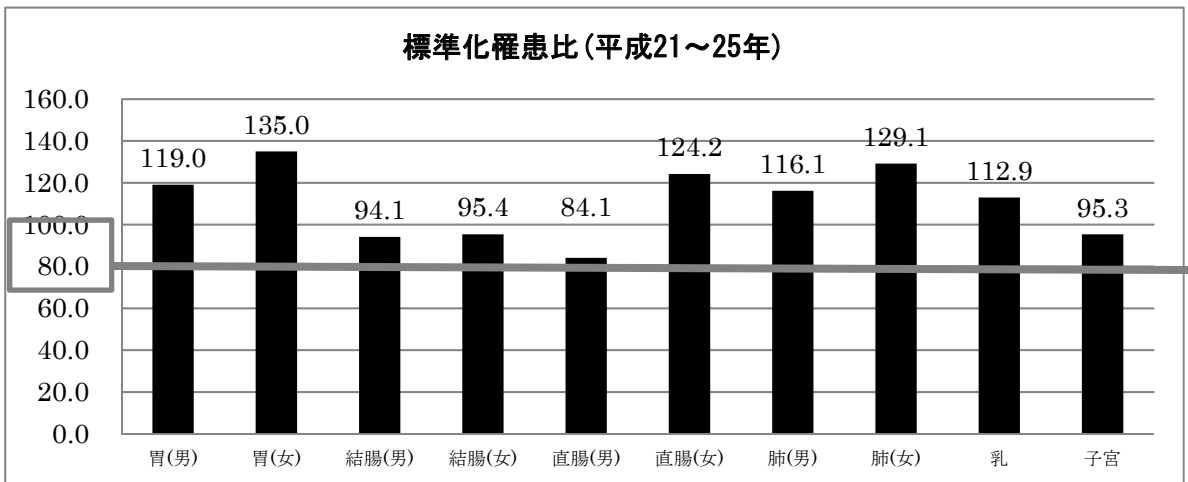
※白抜きは死亡者数・・・(人)

資料:鳥取県福祉保健課



※白抜きは死亡者数・・・(人)

資料:鳥取県福祉保健課



資料:鳥取県がん登録事業報告書(平成25年標準集計結果)

② がん検診

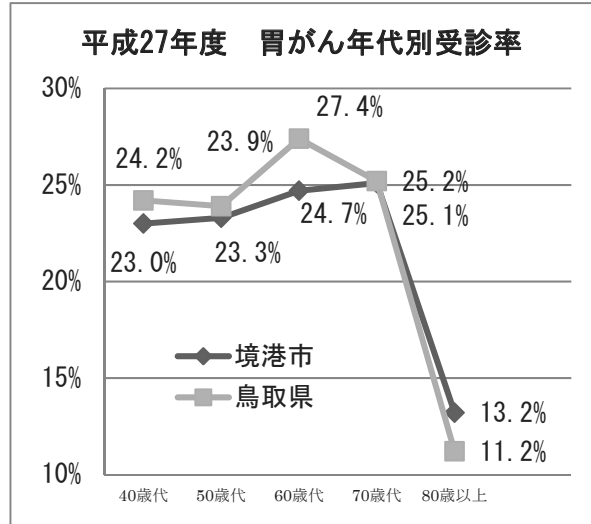
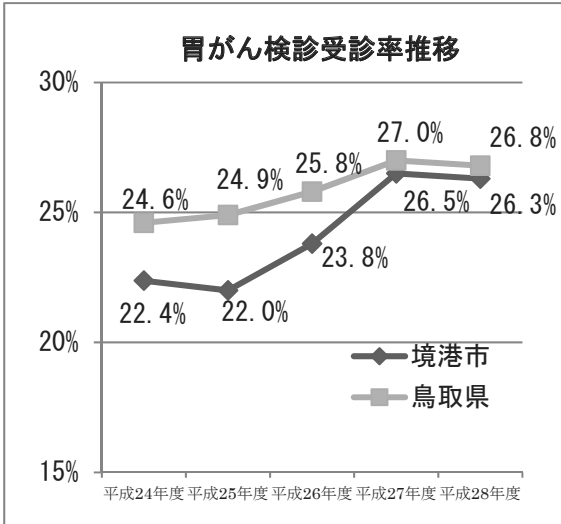
(a) 受診率

＜要約＞健診（検診）の受診率は上昇傾向だが、県平均より概ね低い

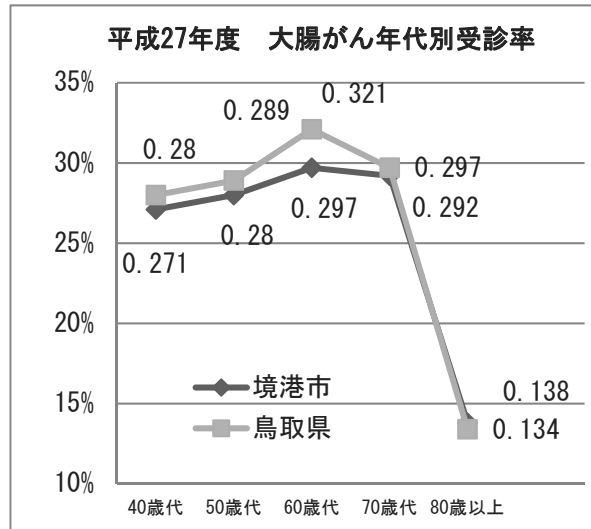
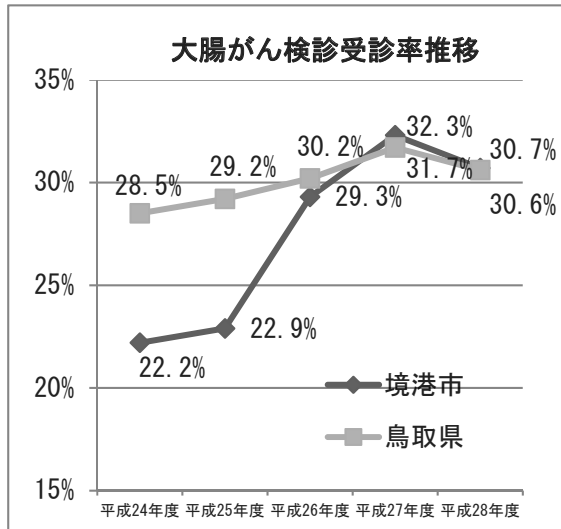
本市の受診率は上昇傾向にあります。平成28年度、県平均より高いのは大腸がん検診のみです。年代別受診率では、主に60代で県平均より低い状況が目立ちます（婦人科系の検診は同程度）。

◆胃がん検診

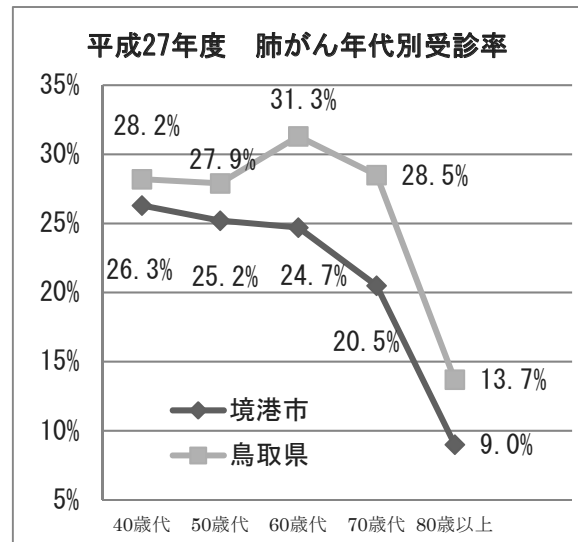
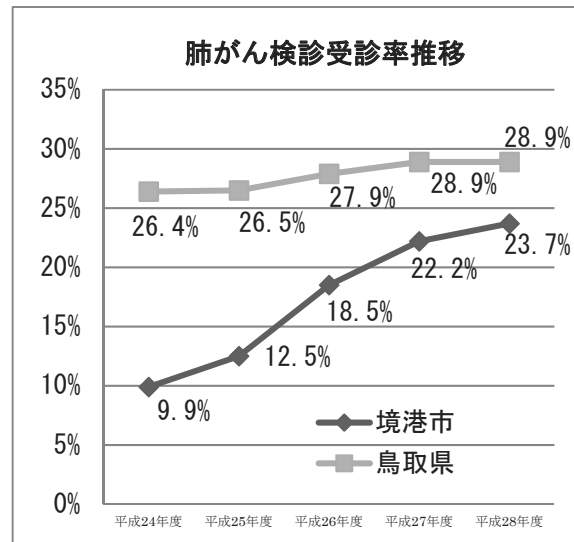
(※年代別受診率は市および協会けんぽの合算)



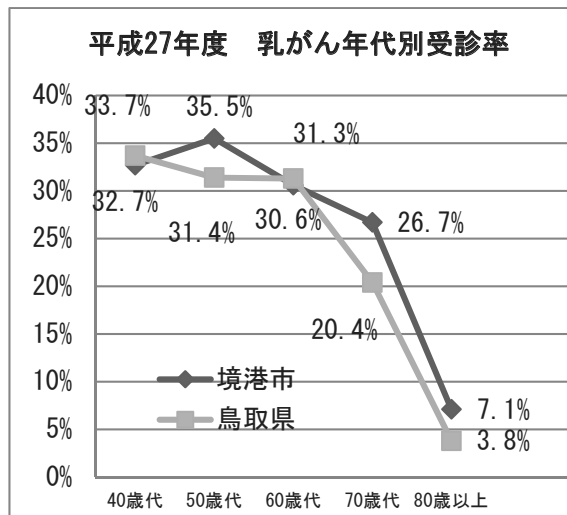
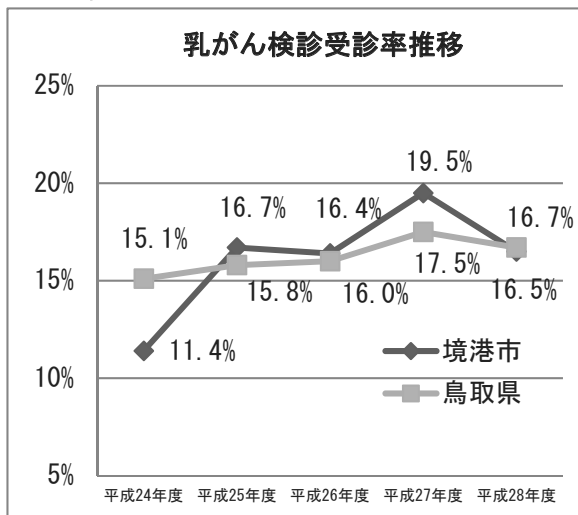
◆大腸がん検診



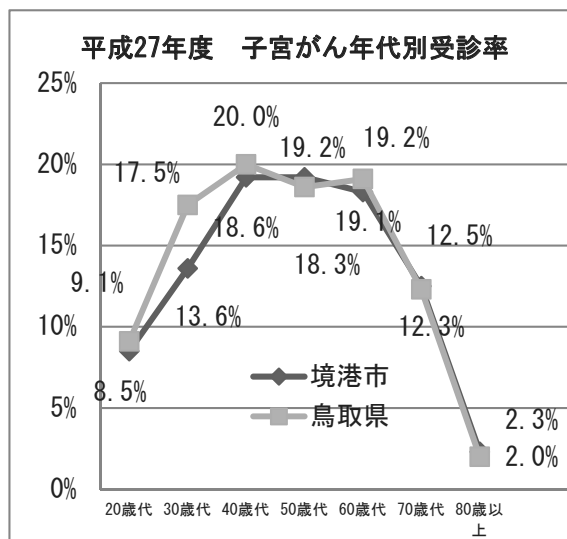
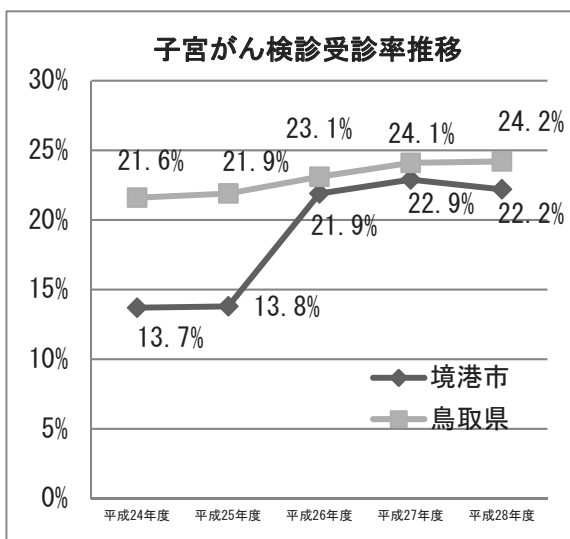
◆肺がん検診



◆乳がん検診



◆子宮がん検診



資料:地域保健・健康増進事業報告

(b) 精密検査結果 (平成 28 年度)

がん検診で、1年間で約50人のがんが発見されています。精密検査受診率は8~9割です。

検診種別	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	精密検査受診者		精密検査結果	
			精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった人 (人)	がん発見率 (%)
胃がん	2,970	45	37	82.2	11	0.37
大腸がん	3,469	330	285	86.3	21	0.60
肺がん	2,680	106	97	91.5	2	0.07
乳がん	1,150	98	91	92.8	6	0.52
子宮がん	1,784	14	12	85.7	7	0.39

資料:健康推進課

(c) 未受診の理由 (平成 24 年度)

＜要約＞未受診の理由の多くは「検診の必要性を感じていない」

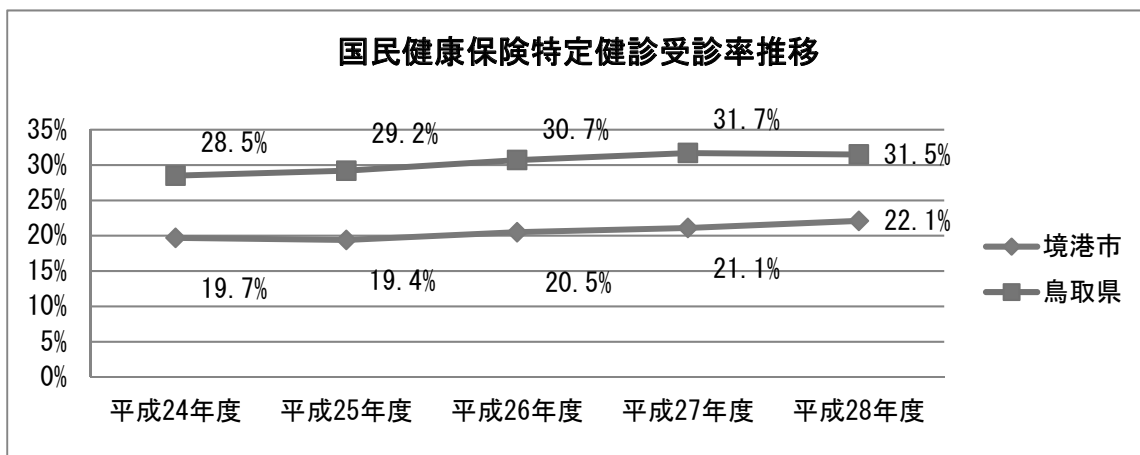
がん検診未受診の理由で、検診の必要性を感じていない理由が目立ちます。

	未受診の理由	人数(173人中)	割合
1	今のところ特に異常が見られない	81	46.8%
2	医療機関を受診しているから	49	28.3%
3	必要な時に病院にかかればいい	29	16.8%
4	面倒くさい	21	12.1%
5	検診の結果がどうか不安	21	12.1%
6	どんなことをするかわからないので不安	20	11.6%
7	検診を受けるときに苦痛がある(痛いなど)	17	9.8%
8	検診へいく時間が無い	14	8.1%
9	検診を受ける時期が分からない	11	6.4%
10	どこで受けてよいか分からない	11	6.4%
11	仕事を休むことが出来ない	8	4.6%
12	その他	20	11.6%

資料：平成24年度「がん検診」に関するアンケート

③ 国民健康保険特定健診受診率 (法定報告値)

受診率は約2割で毎年微増していますが、県平均と比較すると低い状況です。



資料：健康推進課

④ 協会けんぽ・国民健康保険特定健診年代別受診率（平成 27 年度） ※法定報告値と異なる

協会けんぽ、国保ともにほとんどの世代において県平均より低い状況です。

		40 歳代	50 歳代	60 歳代	70～74 歳	合計
協会本人	境港市	61.9%	56.0%	49.5%	28.6%	55.6%
	鳥取県	65.9%	65.5%	59.0%	39.1%	63.5%
協会扶養	境港市	9.7%	16.9%	17.3%	20.4%	15.4%
	鳥取県	14.3%	18.4%	23.4%	22.1%	19.8%
国保	境港市	11.2%	12.5%	21.1%	25.3%	20.0%
	鳥取県	14.2%	18.4%	23.4%	22.1%	29.9%
協会+国保	境港市	41.2%	38.5%	28.4%	25.2%	33.1%
	鳥取県	46.4%	44.7%	37.9%	36.7%	41.3%

資料：協会けんぽ作成

＜要約＞国保加入者の特定健診結果が悪い
（基準値以上の該当率が高い）

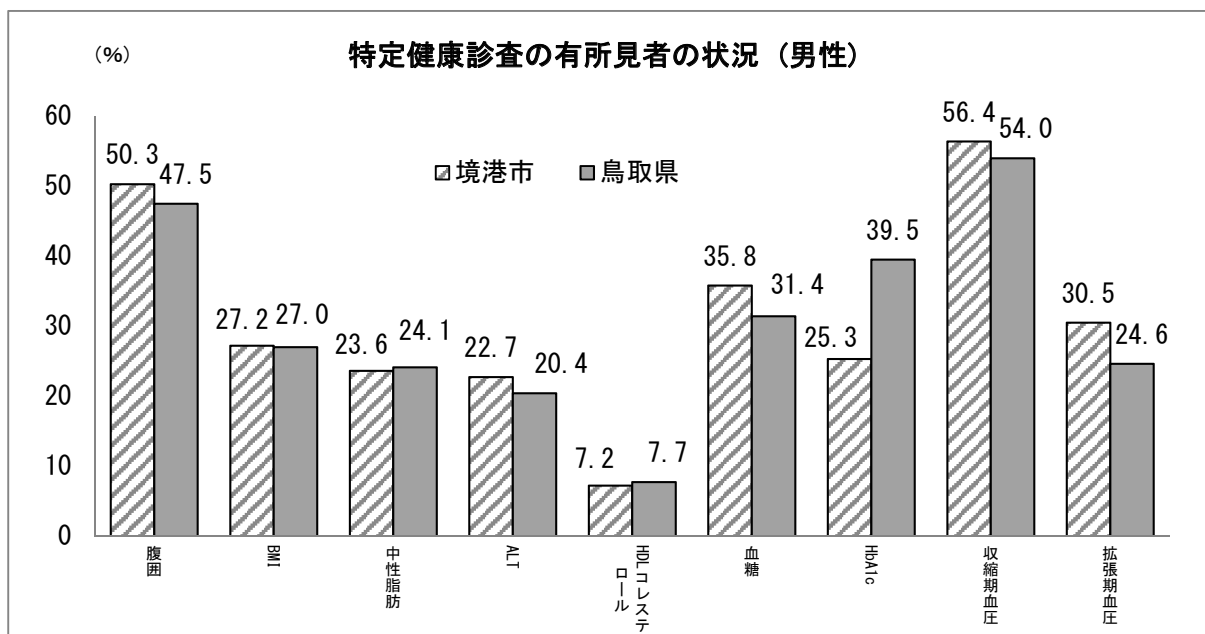
⑤ 特定健康診査の有所見者の状況

平成 28 年度の特定健康診査の受診結果によると、有所見者の割合が県平均より 5 ポイント以上高い項目は、男性では拡張期血圧、女性では見られませんでした。しかし収縮期血圧は半数以上が有所見者となっています。全 9 項目のうち、男女ともに 6 項目が県平均より高くなっています。

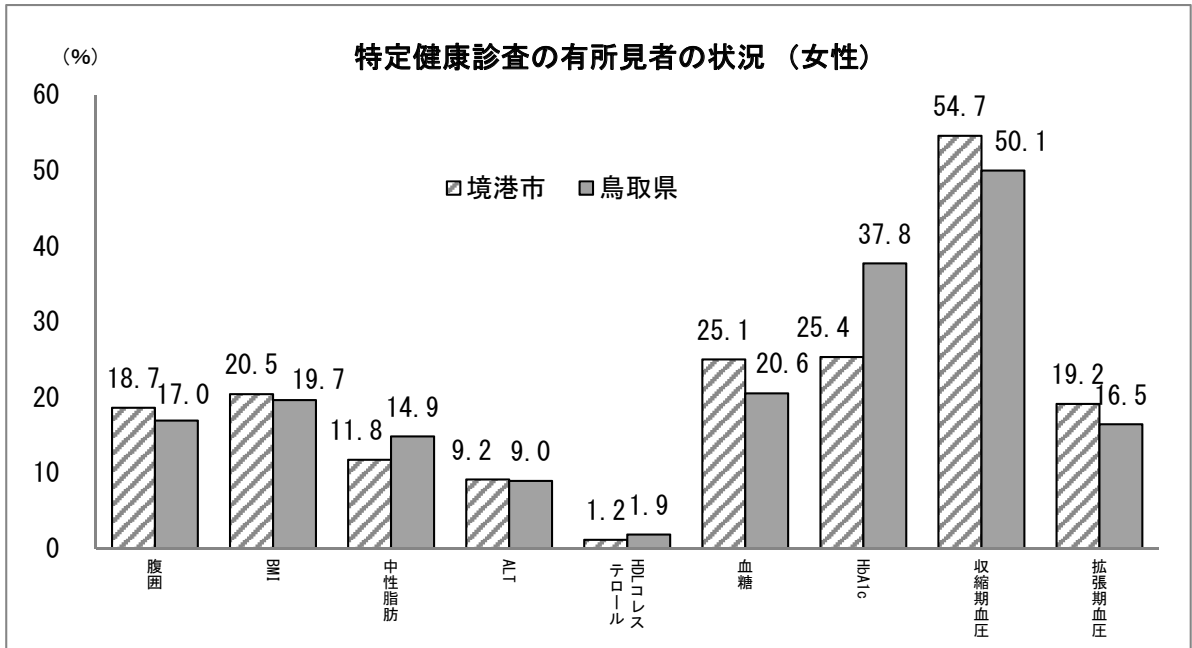
メタボリックシンドロームの予備群及び該当者の割合は、男性の予備群を除き、県より高くなっています。

(a) 有所見者の状況

◆男性

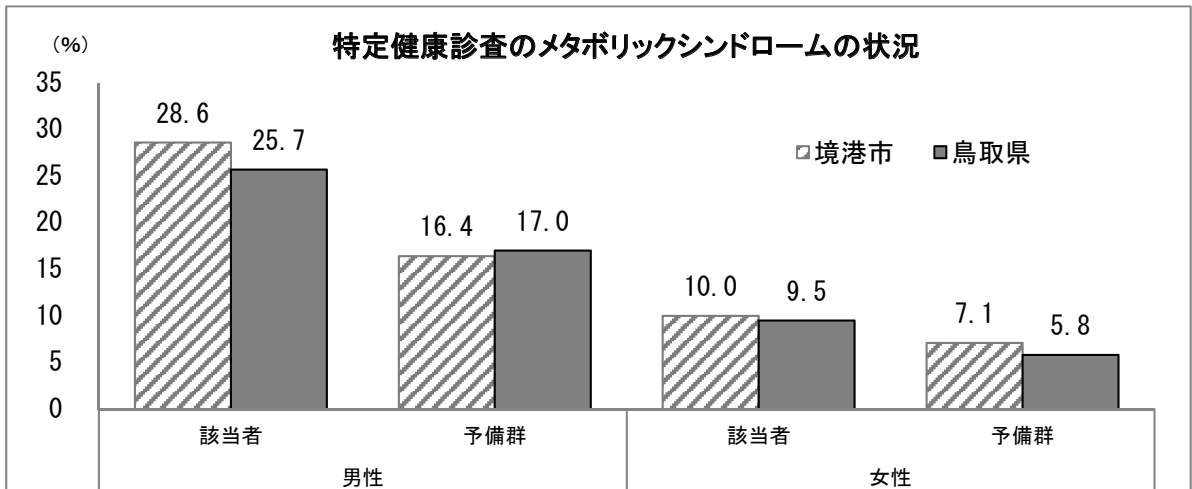


◆女性



資料：第3期特定健康診査等実施計画

(b) メタボリックシンドロームの状況



資料：第3期特定健康診査等実施計画

⑥ 保険者別医療費状況（平成27年度）

＜要約＞一人当たりの医療費、入院外の国保で「内分泌・栄養及び代謝疾患」が高い

全体的に一人当たりの医療費が高い傾向です。特に、入院外の国保の「生活習慣病」の医療費、中でも「内分泌・栄養及び代謝疾患」の医療費が高く、県内で最下位（一番高い）です。

種別	内訳		協会本人		協会扶養		国保		後期高齢		
	1	2	医療費	順位	医療費	順位	医療費	順位	医療費	順位	
生活習慣病		入院	25,636	17	15,552	8	69,513	15	236,839	12	
		入院外	28,198	16	17,612	7	89,751	19	158,305	14	
	新生物		入院	15,953	17	5,052	8	35,258	17	60,510	12
			入院外	9,110	18	2,779	6	20,143	18	16,725	5
		胃	入院+入院外	2,282	12	708	11	6,088	16	7,650	8
		大腸	入院+入院外	1,933	8	1,243	14	6,088	16	17,540	18
		肝	入院+入院外	1,193	18	683	19	7,424	13	14,836	16
		肺	入院+入院外	2,853	14	444	9	1,929	10	6,642	16
		乳	入院+入院外	5,557	16	2,389	7	9,845	11	5,688	17
		子宮	入院+入院外	886	11	84	8	3,695	19	0	1
	内分泌、栄養及び代謝疾患	入院	746	11	773	8	6,784	18	19,784	13	
		入院外	7,331	17	6,033	17	31,244	19	36,643	18	
	循環器	入院	8,268	12	6,702	10	23,565	9	109,047	10	
		入院外	9,632	18	5,557	14	24,357	17	68,666	15	
	精神疾患	入院	752	13	6,313	11	19,422	8	20,617	15	
入院外		2,684	12	4,997	14	7,430	12	5,567	16		

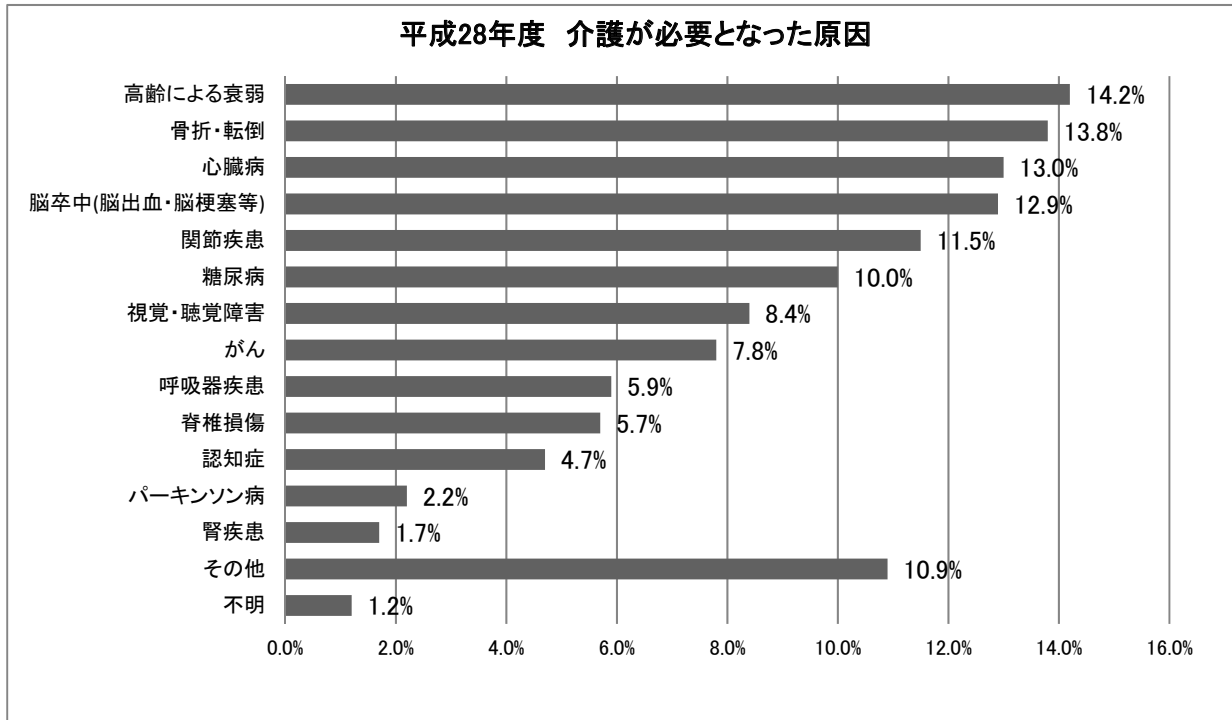
一人当たりの医療費：単位（円）

資料：協会けんぽ鳥取支部

⑦ 介護が必要となった原因

<要約>介護・介助が必要になった原因として、転倒・骨折、生活習慣病が目立つ

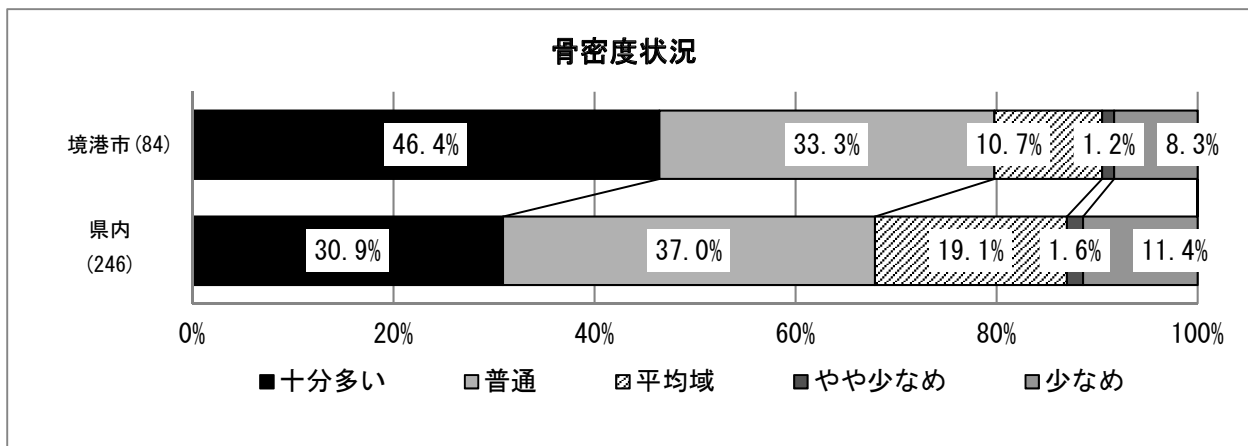
介護・介助が必要となった原因は「高齢による衰弱」が14.2%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が13.8%と高くなっています。原因として、生活習慣病も目立っています（「心臓病」13.0%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」12.9%、「糖尿病」10.0%、「がん」7.8%）。



資料：第7期高齢者福祉計画 境港市介護保険事業計画

⑧ 骨密度状況

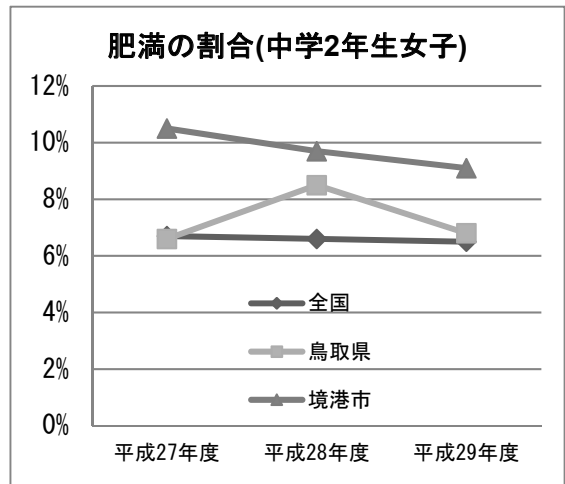
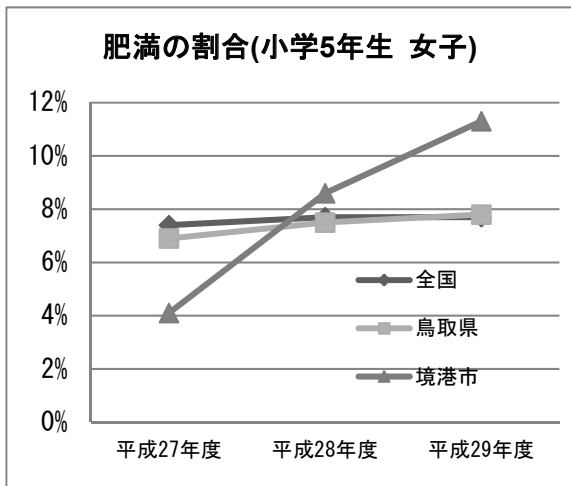
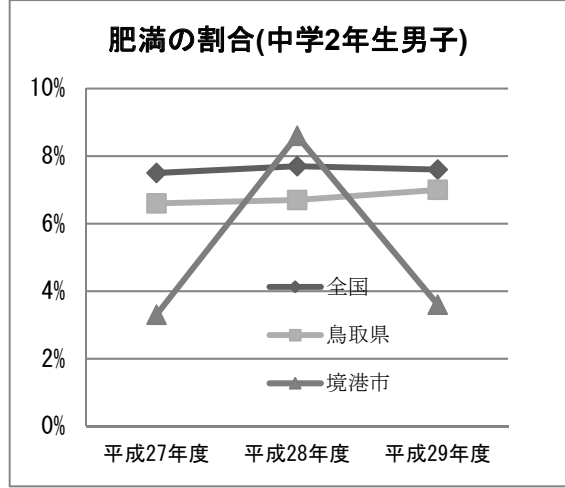
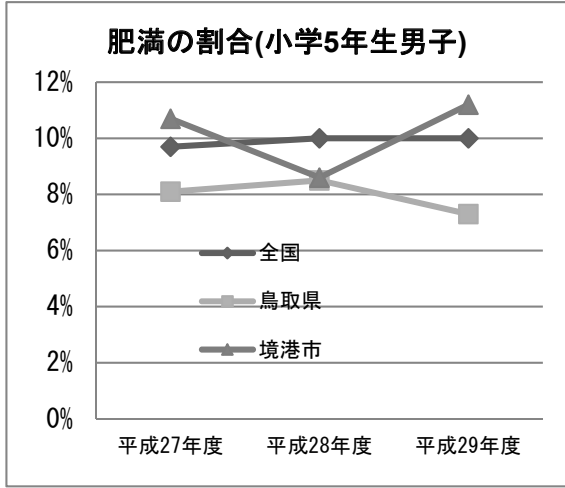
骨密度測定結果は「十分多い」の割合が一番高いです。また、県内より「普通以上」の割合が高く、「少なめ」の割合が低くなっています。



資料：平成29年度健康まつり骨密度測定結果 ※国保連合会測定

⑨ 児童・生徒の肥満の状況

小学5年生女子で、肥満の割合が増加傾向です。中学2年生女子では、過去3年間で、全国・県より、肥満の割合が高い状況が続いています。



資料：学校保健統計調査